

小松島

小松島
市勢要覧
2021

時間旅行

小松島らしさの創造と継承

●市制70周年記念

KOMATSUSHIMA Time Trip

Creation and Succession of Appeal as KOMATSUSHIMA



小松島時間旅行

小松島らしさの創造と継承

小松島市勢要覧2021

●市制70周年記念

発行日 令和3年3月

発行 徳島県小松島市

〒773-8501 徳島県小松島市横須町1番1号

TEL0885-32-2111 FAX0885-33-3253

企画編集 小松島市秘書政策課

制作 株式会社ぎょうせい

小松島時間旅行

小松島らしさの創造と継承

小松島市勢要覧2021

目次 CONTENTS

小松島時間旅行	1
小松島らしさの創造と継承	2
Chapter I	
〔歴史〕	4
小松島という地名	5
義経率いる平氏討伐軍の足跡を追って	6
〔誕生〕	8
Chapter II	
〔港まち〕	14
小松島港 潮風の記憶	15
臨海工業港湾都市	16
21世紀への港 海の未来へ	17
Chapter III	
〔探検〕	18
名勝・旧跡 小松島こころの風景	19
文化財図鑑	20
小松島の民話・伝説	22
ロマンをつなぐプロムナード	24
Chapter IV	
〔演出〕	26
たぬぎのまちづくり	27
医療・福祉が連携した街の再生!!	28
全国初 発達障がい者総合支援ゾーンが完成!	29
花みずぎの咲く風景	30
市民の命を守る津波避難施設「希望の丘」完成!	31
夢の花咲く広場で	32
心やすらぐ水辺で	34
橋のある風景	36
小松島名水物語	38
Chapter V	
〔躍動〕	40
ボランティアの心	41
交流で広がる友情の輪	42
ふるさとの詩	44
四季のきらめきと遊び	48
インフォメーション	
小松島市の概要・市章・市の花・市の木 市推奨の魚・小松島市社会福祉憲章	52
発刊にあたって	
小松島市長 中山 俊雄	53

小松島 時間旅行

小松島らしさの創造と継承

小松島市勢要覧2021



地藏寺蔵

小松から
創造し
継承と
島の
の



明るい活気に満ちた太陽……

心を静かなやすらぎで包みどり豊かな山々……

どこまでも続く真つ青な海、

そして、清らかな水に恵まれた小松島市。

新たな時代の到来とともに、海原の彼方に

続く世界へと船出の時間が近づいてきた。

まちに暮らす人、まちを訪れる人が笑顔で、

ふれあい、賑わい、感動できる都市づくりを目指して、

小松島市はいま、賑わい、やすらぎ、輝きの創造と

継承を船標として、未来へと続く航路へ出発する。

Komatsushima City, where the bright and forceful sun shines down; greenery mountains embrace our hearts with peaceful serenity; interminable deep blue sea glints; and the pure natural water is abundant. With the arrival of the new century, the city is about to set sail to the world beyond the watery wilderness. The city is now putting on the run leading to the future for a waymark as "Creation and Succession of Prosperity, Serenity and Brilliancy," aiming to form a community where visitors to the city as well as the citizens can hold communication each other with a smile, grow in prosperity, and be inspired.

In this district, with a variety of natural environment, highly cultured people have inhabited since its early days; and have molded history, having close connection with the Kinki region beyond the sea.

Chapter I

第1章

歴史

さまざまな自然条件に恵まれたこの地には、早くから高い文化をもった人々が居住し、海に向こうの近畿圏と深い関わりを持ちながら歴史を刻んできた。

当市域では、古くは縄文時代晩期の遺跡が確認され、縄文時代では土偶等が、弥生時代では銅鐸等が出土し、古墳時代になると多くの古墳が築かれました。古代では那賀郡・勝浦郡に含まれ、中世ではいくつかの荘園が設定されます。一説には、京都の小松郷にあった仁和寺の荘園があったことから小松島の地名が生まれたといわれています。また「勝浦郡村誌」によれば、源義経が当地に上陸したとき松に駒をつないだため、コマツナギ島と称し、これが地名の由来であるとされており、他にも、勝浦川の三角州上の「小松の島」に由来するという説もあります。

小松島の地名が文献に登場するのは鎌倉時代からで、当時の文献からは、小松島の船が紀伊水道で大いに活躍していた様子がうかがえます。

近世、蜂須賀氏が入国してからは太平の時代が続き、金磯新田などの新田開発が次々と行われました。農業が発達して耕地が急激に広がる一方、徳島藩の直轄地として小松島湾岸にある小松島浦に集落が形成され、在郷町として発展していききました。

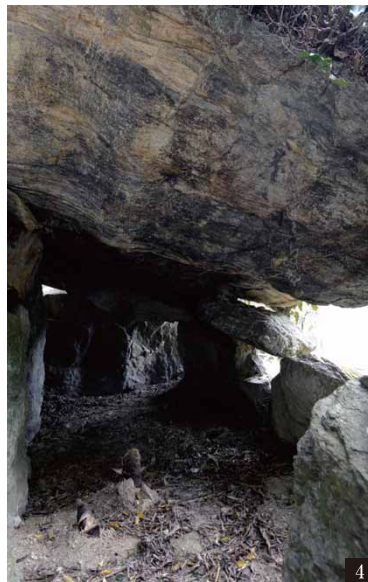


Chapter I

小松島という地名

中世、京都の小松郷にあった仁和寺の荘園がこの地にあったことから、小松島の地名が生まれたといわれている。

In this municipal area, about thirty ancient tombs were unearthed, and stone implements and ware of the Yayoi period were excavated. A number of manors were established in ancient times and the medieval ages, and were important centers of transportation by land and sea. Komatsushima City in the Edo era flourished as a commercial and financial center in Awa province, where the agricultural industry grew owing to developed newly reclaimed rice fields, and wealthy stores stood side by side in the port.



- 1 5世紀に造られた前山古墳、東側の丘陵の前山遺跡からは埴輪も出土
- 2 勢合山から出土した高さ約39cmの「袈裟禪文銅鐸」(県指定文化財・徳島県立博物館蔵)
- 3 秋祭りに催される子供たちのやぶさめで知られる櫛淵八幡神社
- 4 巨大な自然石で構築された「弁慶の岩屋」と呼ばれる古墳(県指定史跡・7世紀)

小松島市の長い歴史の中でも、屋島の合戦へ向かう源義経が四国で最初に上陸した地であるとされることは有名で、今でも市内各所に義経ゆかりの場所が点在し、数々の伝説が語り継がれています。

源平争乱の時代、伊豆に兵を挙げた源頼朝は、平氏政権に不満を持っていた関東武士の支持を得て鎌倉に進出し、富士川の戦いで平家軍に大勝して鎌倉幕府を開きました。頼朝は、平家軍追討のため弟の範頼と義経を大将とする大軍を西へ送り、一ノ谷(今の神戸市

内)と屋島(高松市)で平家軍を破り、壇ノ浦(下関市)で遂に平家を滅ぼすのです。

一ノ谷の戦いで敗れ、讃岐屋島に逃れた平家軍追討の命を受けた義経は、摂津渡辺の津(今の大阪市堂島)から二十隻の船で漕ぎ出し、紀淡海峡を南下。折からの暴風雨に乗じて、通常二日かかる行程をわずか六時間で阿波の国勝浦(現在の徳島市南部から小松島市北部)に上陸しました。寿永四年(一二八五)二月十八日早朝の



1

One of the most famous events in Komatsushima City's history is that Yoshitsune, a military commander, disembarked the district in order to hunt down and kill the Heike troops that escaped to Yashima, at the times of the battles of the Genji and Heike clans. Even now there are various parts of the city dotted with places that have some connection with Yoshitsune, and numeral legends that have grown up around him have been passed down from generation to generation. In the morning of February 18, 1185 Yoshitsune, in a rainstorm, disembarked present Komatsushima at the head of the troops of more than 150 soldiers all the way from present Osaka. They kept walking all night to cross into the border of Sanuki province and attacked the Heike troops from behind on the following day, which is known as a victory of the Genji troops over the Battle of Yashima. The route the Yoshitsune troops was believed to have taken is called "Yoshitsune Dream Road" and those who look for romanticism in history admire it. The statue of a cavalier, Yoshitsune, which is the highest statue in Japan, was erected at the summit of Mt. Hata in 1991 and it is the symbol of Komatsushima City.

ことでした。義経が率いた軍は、精兵わずか一五〇余騎。地元の新居見城主・近藤六親家の先導を受けて、現在の小松島市を横断して土佐街道を北へ進み、勝浦川を渡り、平家方の熊山城（徳島市）、桜間城（石井町）を攻め破り、夜を徹して難所とされる大坂峠を越えて讃岐国に入りました。十九日には屋島に近い牟礼に押し寄せ、背後から平家軍を攻撃。義経軍の奇襲を受けてあわてた平家軍は海に逃れ、源氏は屋島の戦いに勝利したのです。

また、義経が兵士達の士気を高めるために白旗を掲げたとされる「旗山」の山頂には、平成三年に六・七メートルの日本一の高さを誇る義経騎馬像が立てられ、夜はライトアップされて、小松島市のシンボルとして市民に親しまれています。



Chapter I

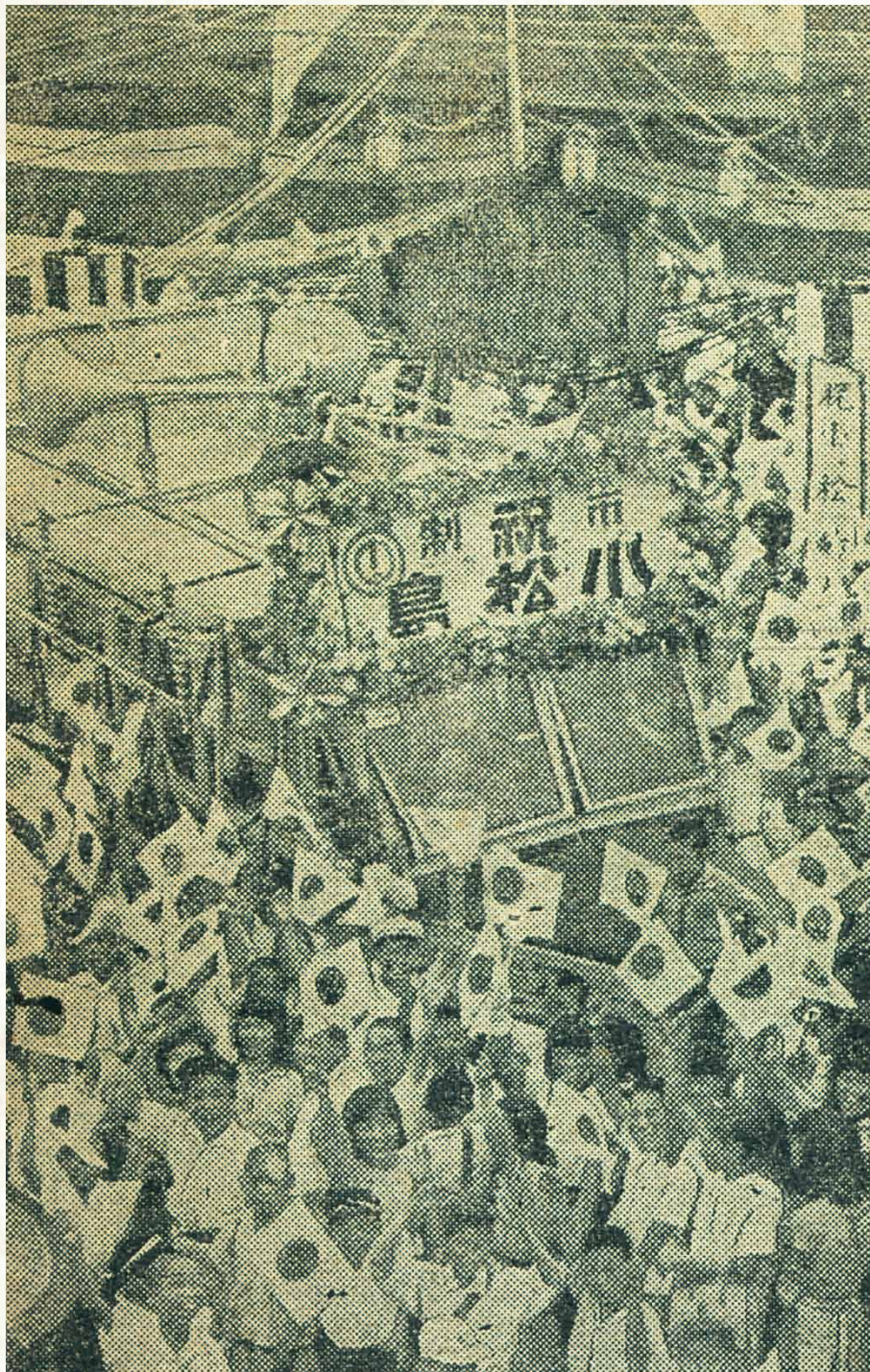
義経率いる 平氏追討軍の足跡を 追って

寿永4年（1185）2月18日、屋島に逃れた平家軍追討のため、源義経軍は風雨をついて阿波の国勝浦に上陸。当地を駆け抜け屋島へと向かった。



- 1 旗山山頂の東端にある源義経騎馬像、台座2.6m・像高6.7mで騎馬像では日本一
- 2 着岸した義経軍が軍船を勢揃いさせた場所と伝えられる「勢合」
- 3 義経上陸の地、義経軍は暴風雨をついて紀淡海峡を南下し勝浦に上陸した
- 4 旗山、源義経はこの山の山頂に源氏の白旗を掲げ兵士の士気を高めた
- 5 宇治川先陣争いをした名馬「池月」が倒れて石に化したとされる「天馬石」
- 6 義経上陸の際、手兵30余騎で屋島へ先導した近藤六親家の居城「新居見城跡」
- 7 義経が馬の鞍をかけたと言われる春日神社境内にある「くらかけの岩」
- 8 「中王子神社」義経軍はこの付近から勝浦川を渡り熊山城を攻めた

The municipality of Komatsushima was born in 1951 as the third city in Tokushima Prefecture after Tokushima and Naruto City with Komatsushima and Tatsue Town merging together. Let's have a look at the photographs that show us the change of times over the sixty years since the city was born.



昭和26年／小松島市の市制施行を祝う市民たち。徳島市、鳴門市に次いで県下3番目の市の誕生であった。

誕生

戦災をほとんど受けず、昭和26年当時
県下最大の町であった小松島町は、同年立江町と合併。
徳島市、鳴門市に次いで県下3番目の市として小松島市が誕生した。

1951→1968



昭和35年 / 社会福祉会館開設



昭和40年 / 小松島市の
中学校卒業生の集団就職



昭和30年 / 小松島港1万トン岸壁着工



昭和25年 /
小松島競輪場
開催当時の場内

昭和26年 / 市制の準備として
市バススタート



昭和39年 /
市社会福祉会館
新築



昭和36年 / 第二室戸台風来襲



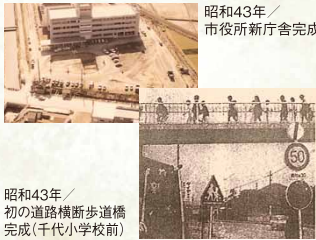
昭和31年 /
坂野町編入

昭和32年 /
金長たぬき大明神社建立



昭和26年 /
合併当時の市役所

昭和26年 /
日本赤十字病院誘致



昭和43年 /
市役所新庁舎完成

昭和43年 /
初の道路横断歩道橋
完成(千代小学校前)



昭和38年 / 市営ゴミ焼却場完成



昭和33年 / 南海丸沈没遭難事故



昭和28年 / 天皇、皇后両陛下ご来市(国民体育大会)

小松島市略年表

社会の動き

- 昭和26年(1951年)
 - 重要港湾指定 ● 町営バス創業 ● 中央高校(現小松島西高校)開校 ● 立江町と合併 ● 小松島市誕生 ● 日本赤十字病院誘致
 - 昭和27年(1952年)
 - 地藏寺玄関書院指定 ● 上水道通水
 - 昭和28年(1953年)
 - 小松島市教育委員会誕生
 - 昭和29年(1954年)
 - 市営グラウンド完成 ● 弁慶の岩屋県指定 ● 第8回国体開催(天皇皇后両陛下ご来市) ● 雲電図県指定
 - 昭和29年(1954年)
 - 時絵観松齋鑑鞍県指定 ● アコ県指定 ● 銅鑼県指定
 - 昭和30年(1955年)
 - 市立養老院開設
 - 昭和31年(1956年)
 - 小松島港1万トン岸壁着工 ● 北小松島小学校開校
 - 昭和32年(1957年)
 - 貿易会館完成
 - 昭和33年(1958年)
 - 坂野町編入 ● 和歌山航路開設 ● 成人式開催
 - 昭和34年(1959年)
 - 上水道事業併用 ● 阿根航路開設 ● 金長たぬき大明神社建立
 - 昭和35年(1960年)
 - 南海丸沈没遭難
 - 昭和36年(1961年)
 - 坂野根上り松県指定 ● 福祉協議会発足
 - 昭和37年(1962年)
 - 小松島港1万トン岸壁完成 ● 薬師如来座像県指定
 - 昭和38年(1963年)
 - 国民健康保険開始
 - 昭和39年(1964年)
 - 第二室戸台風来襲 ● 金磯1万トン岸壁着工
 - 昭和40年(1965年)
 - 市営ゴミ焼却場完成 ● 神戸植物防疫所小松島出張所開設
 - 昭和41年(1966年)
 - 土地開発公社発足
 - 昭和42年(1967年)
 - 新産業都市指定 ● 重要港湾小松島港完成
 - 昭和43年(1968年)
 - 市社会福祉会館新築 ● 南海フジ1就航
 - 昭和44年(1969年)
 - 小松島航空隊開隊 ● 鉄鋼団地造成完成
 - 昭和45年(1970年)
 - 電報電話局新館(ダイヤル式切替) ● 高松入管小松島出張所開設
 - 昭和46年(1971年)
 - 金磯1万トン岸壁完成 ● 山陽国策パルプ株 ● 小松島工場操業開始
 - 昭和47年(1972年)
 - 市役所新庁舎完成 ● 市内初の横断歩道橋完成(千代小学校前)
-
- 第1回NHK紅白歌合戦 ● 第1回アジア競技大会 ● ユネスコが日本の正式加盟承認 ● 民間放送開局 ● 講和条約日本完全保障条約締結 ● 羅生門(ベネチア国際映画祭)上映
 - 琉球中央政府発足 ● 住民登録実施 ● 第15回オリンピック大会 ● 破防法交付(公安調査庁発足) ● 日本電信電話公社発足 ● 日本が国際通貨基金(IMF)に加盟 ● キリス初の原爆実験 ● 第4次吉田内閣成立
 - アメリカ、アインハワ、共和政権成立 ● NHK、東京地区テレビ放送開始 ● ソ連、スターリン首相死去 ● 吉田内閣バヤロ解散 ● 日米友好通商条約調印 ● イギリス、エレン・ブーバー、初登壇に成功 ● 女王エリザベス二世冠式 ● 日本テレビ放送開始 ● 奄美群島、アメリカへ返還
 - アメリカ、カビエニ水爆実験 ● ソ連、福利龍丸被弾 ● ソ連、KGB誕生 ● 第1回国際見本市 ● 全日本自動車ショー開催 ● シネプロ会議開催 ● 中国、第1期全国人民代表大会 ● 中華人民共和国憲法を採択 ● 国家主席に毛沢東 ● 防衛庁自衛隊発足 ● 鳩山内閣成立
 - 日ソ国交回復に関する共同宣言 ● 日本南極観測隊出發 ● 東海運本線全線電化完成 ● ルポル、オリンピック大会
 - 南極昭和基地建設 ● 東海村原子力研究所「原子炉の点火」 ● ソ連、人工衛星スプートニク2号打ち上げ ● 日ソ通商条約調印
 - アメリカ、人工衛星エクスプローラ第1号打ち上げ ● 第3回アジア競技大会(東京) ● 皇太子明仁と正田美智子の婚約発表 ● 上野、1円札発行
 - ドゴウラ、フランス大統領に就任 ● 国民年金法成立 ● 皇太子、正田美智子御成婚 ● 天皇皇后、初めてのプロ野球観戦 ● 伊勢湾台風
 - 安保改定阻止、全学連国会に突入 ● テリ地震津波、大平洋岸来襲 ● アメリカ、カネア、ニコニコソフト政策 ● 発表 ● 第17回ローマオリンピック大会 ● 閣議で国民所得倍計画決定
 - アメリカ民主党ケネディ大統領就任 ● ソ連、初の人間宇宙船「ヴォストーク1号」打ち上げ ● ガリン、少佐 ● 東ドイツ、東西ベルリン境界封鎖(ベルリンの壁) ● アメリカ核実験再開 ● 経済協力開発機構(OECD)発足
 - 小さな親戚運動本部設立 ● アメリカ、ソ連間に直通電話(ホットライン)協定 ● 南アフリカ軍事クーデター ● アメリカ、ケネディ大統領暗殺事件 ● プロレス、力道山刺殺事件 ● 大韓民国、朴大統領就任
 - 日本、OECDに正式加盟 ● 新潟地震 ● アメリカ、人種差別撤廃の公民権法成立 ● 富士山噴気象シスター完成 ● 東海道新幹線開通 ● 東京オリンピック大会 ● 中国初の原爆実験に成功 ● 佐藤栄作内閣成立
 - イギリス、チャールズ元首相死去 ● 南アフリカ、アメリカ大使館爆破事件 ● 名神高速道路全線開通 ● 吉原、チャリンコ誘拐事件 ● 東京教育大学教授朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞 ● 日本、国連安保理非常任理事国に就任 ● 小笠原諸島、政府、初の原爆被害者調査 ● 中国初の水爆実験 ● 吉田元首相死去 ● 89歳、戦後の国葬 ● トマン戦争の拡大激化
 - 東大で安田講堂占拠 ● アメリカ、キング牧師暗殺事件 ● 全国の加入電話1千万台超 ● 世界2位 ● アメリカ、ロバートフレイ、大統領暗殺事件 ● 小笠原諸島復帰 ● 郵便番号制定 ● ランチ、アメリカ大統領誕生 ● 3億円強奪事件

1969→1984



昭和57年坂野公民館改築



昭和55年／立江公民館改築



昭和48年／国道55号バイパス 勝浦川堤防～日開野間1.5km完成



平成5年／国道55号南バイパス 小松島～阿南間開通



昭和45年／市消防署救急業務開始



昭和58年／中央会館開館

旧中央会館



昭和57年／市立体育館完成



昭和49年／目佐厚生福祉解放センター完成



昭和47年／厚生福祉解放センター完成



昭和59年／全国美業団バレーボールリーグ開催



昭和57年／高速艇マリンホーク就航



昭和52年／泰地総合センター完成



昭和47年／田浦浄水場完成(水道部)

- 昭和44年(1969年)
 - 港湾合同庁舎完成
- 昭和45年(1970年)
 - 動物検疫所開所 ● 救急業務開始 ● 市民プール完成
- 昭和46年(1971年)
 - 社会福祉憲章条例制定
 - 葬斎場完成
- 昭和47年(1972年)
 - 小松島厚生福祉解放センター完成
 - 田浦浄水場完成(水道部) ● 新住居表示実施
- 昭和48年(1973年)
 - 国道55号バイパス勝浦川堤防～日開野間1.5km完成
 - 金機1.5万トン岸壁完成
- 昭和49年(1974年)
 - 横須海水浴場閉鎖 ● 立江寺本堂焼失 ● 小松島フェリー就航
 - 目佐厚生福祉解放センター完成 ● 小松島市史(上巻)発刊
- 昭和50年(1975年)
 - 市外3町村衛生組合設立 ● 北小松島公民館開館
 - 和田島公民館開館
- 昭和51年(1976年)
 - 第5次港湾整備計画策定 ● 小松島老人憩いの家開館
- 昭和52年(1977年)
 - 広域し尿処理場(しらさぎ浄園)完成 ● 恩山寺自然公園完成
 - 泰地総合センター完成 ● 赤石会館開館
- 昭和53年(1978年)
 - 小松島公民館開館 ● 天王社稚児三番そう県指定
 - 小松島地方卸売市場開所(全機町)
- 昭和54年(1979年)
 - 勤労者プール完成 ● 櫛淵公民館開館 ● 団体営ほ場整備事業
 - 新居見地区着工 ● 市青少年健全育成市民会議発足
- 昭和55年(1980年)
 - 立江公民館改築
- 昭和56年(1981年)
 - 太田川・田野・芝生地区県営ほ場整備事業着工
- 昭和57年(1982年)
 - 史跡等顕彰碑建立(19基) ● 小松島市史(中巻)発刊
 - 第6次港湾整備計画策定 ● 児安公民館開館
 - 市制30周年記念
- 昭和58年(1983年)
 - 市立体育館完成 ● 高速船マリンホーク就航
 - 勤労青少年ホーム開館 ● 坂野公民館改築
- 昭和59年(1984年)
 - 中央会館開館 ● ごみ焼却施設改築
 - ひのみね整形外科センター ● 県立養護学校ひのみね分校落成
 - 総合福祉センター完成

1985→1997



平成6年／ふるさとダービー小松島開催



平成4年／市総合コミュニティセンター完成



昭和63年／小松島西高校選抜高校野球大会初出場



昭和60年／旧国鉄小松島駅舎



平成8年／千歳橋架け替え完成



平成5年／東四国国体開催(自転車)



平成元年／小松島市農協合併



昭和60年／さよなら小松島港線



日本丸

平成9年／第12回海の祭典開催



平成5年／東四国国体開催(剣道)



平成3年／八千代橋完成



昭和61年／港龍閣新入幕

- 昭和60年(1985年)
 - 国鉄小松島港線廃止 ● バスターミナル完成
 - 北小松島小学校新校舎完成
 - 昭和61年(1986年)
 - 港龍閣新入幕
 - 昭和62年(1987年)
 - 小松島中学校体育館完成
 - 昭和63年(1988年)
 - 小松島西高校選抜高校野球大会初出場
 - 市の花(花みずき)・木(やまもも)制定
 - 国道55号徳島南バイパス日開野〜芝生間開通
 - 平成元年(1989年)
 - 小松島市農協合併
 - 平成2年(1990年)
 - 小松島市国際交流協会発足 ● 地域づくり事業指定(旧国鉄跡地図書館) ● 毎月11日を「人権の日」と決定
 - 平成3年(1991年)
 - 赤石トンネル開通 ● 八千代橋完成
 - 源義経騎馬像建立
 - 平成4年(1992年)
 - 武道館完成 ● 生涯学習センター・市立図書館完成
 - 市総合コミュニティセンター(テレビ)開館
 - 平成5年(1993年)
 - シャンレ号遭難 ● 徳島駅伝初準優勝 ● 世代間交流健康センター完成 ● 秋季東四国国体開催 ● 都市型公園ステーションパーク落成 ● 阿南ハイパス9km完成 ● 立江小と勇足小姉妹校締結
 - 平成6年(1994年)
 - 自転車・歩行者専用道完成 ● ふるさとダービー開催
 - 小松島みなと合同庁舎完成
 - 平成7年(1995年)
 - 小松島港赤石地区大型公共埠頭着工
 - 競輪選手宿舎完成 ● ふるさとダービー開催
 - 外国貿易船1万隻入港
 - 平成8年(1996年)
 - 南海フェリー新旅客ターミナルビル完成
 - 千歳橋架け替え完成 ● 大家正喜選手アトラクタ五輪出場
 - 平成9年(1997年)
 - 第12回海の祭典開催
 - 適応指導教室はなみずき学級開設
-
- スペースシャトル初の軍事専用飛行
 - 上越新幹線の上野大宮間開業
 - 日本電信電話株式会社と日本たばこ産業株式会社が発足
 - 日本人平均寿命3年連続世界一
 - 日航ジャンボ機群馬県に墜落、死亡520人、生存4人
 - フリーヒールのマルコス大統領夫妻がカム島に脱出、アキラ大統領補内閣発足
 - ソ連チエルノブイリ原子力発電所で事故発生
 - 政府オレシン輸入自由化方針発表
 - 神戸朝日新聞阪神支局銃撃事件
 - 竹下登内閣発足
 - 利根川進博士ノーベル賞受賞
-
- 青函トンネル開通
 - 瀬戸大橋開通
 - リクルー大株主権争い
 - アメリカ大統領選でブッシュ氏当選
 - アメリカ大統領選でクリントン氏当選
 - 昭和天皇崩御、新元号「平成」に決定
 - 消費税スタート
 - 中国天安門事件
 - 美空ひばりさん死去
 - 本島で長崎市長狙撃事件
 - 南アフリカ黒人開放指導者マンデラ氏釈放
 - ヘルシンキでモリ大統領誕生
 - トラックワゴンに暴力団員が侵入
 - 経団連が誕生、ヘルリンの脱離去
 - 湾岸戦争地上戦突入、終結
 - 雲山普賢菩薩像、大規模火砕流発生
 - イトマ事件
 - 宮澤善一内閣発足
 - アメリカロサンゼルス暴動
 - ハルセロオリンシク開港
 - スペースシャトル「エンデバー」打上げ、日本人宇宙飛行士毛利衛さん搭乗
 - アメリカクリントン大統領誕生
 - 北海道道南西沖地震
 - 細川護国閣発足
 - 政府、木の部分開放閣議決定
 - 関西新国際空港開港
-
- 阪神、淡路大震災
 - 地下鉄サリン事件
 - 大リーガー野茂英雄誕生
 - 東京大阪地裁、エイズウイルス訴訟で和解勧告
 - 高速増殖炉「もんじゅ」ナトリウム漏れ事故
 - 北海道豊浜トンネルで岩盤崩落事故
 - イギリス狂牛病騒動
 - アフタナオリンシク開港
 - 菜香エース事件
 - 若田光一さん、スペースシャトル「エンデバー」で宇宙の旅に出発
 - イギリスクロイン羊誕生
 - 神戸市須磨区小学生殺害事件
 - 香港、中国に返還
 - イギリスダイアナ妃交通事故死
 - 日本サッカーワールドカップ初出場
 - 山証券自主産業

1998→2008



平成19年／小松島雨水ポンプ場完成



平成14年／ふれあいセンター立江完成



平成11年／保健センターミリカホール完成



平成20年／勢合雨水ポンプ場完成



平成15年／ねんりんピック太極拳交流大会開催



平成13年／小松島高校選抜高校野球大会初出場



平成20年／県道花園日開野線バイパス開通



平成18年／徳島赤十字病院新築・移転



平成13年／友好都市調印式

- 平成10年(1998年)
 - 広域し尿処理施設しらすぎ浄園改築着手
 - 長野冬季オリンピック開催
 - 全融ビッグバン ●北アイルランド和平合意
 - 中央省庁再編
 - 小淵恵三内閣発足 ●和歌山カレー毒物混入事件
 - 戦後最大のマイナスイノベーション
- 平成11年(1999年)
 - 保健センターミリカホール完成 ●南海フェリー小松島航路休止 ●サイクルシアター完成 ●鴨島場外車券売場完成 ●市民グループ語り部養成発表会
 - ヨロバ通貨続発による単一通貨ユーロ誕生
 - 日本初の脳死臓器移植手術の遂行
 - 日産自動車「サウルス」の登場
 - 東京証券取引所システムを閉鎖 ●コンピュータシステム売買の移行
 - 神奈川県警不祥事件
 - アンリク・バネー通河返還
- 平成12年(2000年)
 - 小松島警察署新庁舎完成 ●日ノ峰山頂公園完成 ●本港地区「しおがせ公園」完成 ●広域し尿処理施設しらすぎ浄園完成
 - 介護保険制度スタート ●森喜朗内閣発足
 - 西鉄高速バス「のぞみ」事件 ●北朝鮮首脳会談
 - シドニー開催完了 ●雪印食中毒事件
 - デジタル放送開始
- 平成13年(2001年)
 - 小松島高校春の選抜高校野球大会初出場 ●市制50周年記念式典挙行 ●北海道本別町と友好都市提携調印
 - 新省庁体制スタート
 - 家電リサイクル法施行
 - 小泉純一郎内閣発足
 - アメリカ同時多発テロ事件
 - 国内初の狂牛病発生
 - 野依良治博士 ノーベル化学賞受賞
- 平成14年(2002年)
 - NPO「港まちづくりファンタジーハーバーまじま」設立
 - 日韓共催サッカーW杯
 - 世界同時株安 世界的「不況」
 - 完全学校週5日制の「ゆとり教育」がスタート
 - 任民基本台帳づくり開始
 - 小柴昌俊博士 ノーベル物理学賞受賞 ●田中耕博士 ノーベル化学賞受賞
- 平成15年(2003年)
 - 東洋紡績小松島工場休止
 - ねんりんピック太極拳交流大会開催
 - 小松島高校夏の甲子園初出場、ベスト16
 - 個人情報保護法成立
 - イラク復興支援特遣隊成立 自衛隊派遣へ
 - 新型肺炎SARSの流行
- 平成16年(2004年)
 - コミュニティ交流センターみさき完成
 - みなと交流センター前に産直市オープン
 - 拉致被害者の家族が帰国
 - 新潟県中部地震発生(震度7)
 - 新紙幣発行S1000(1万円札) ●千円札野口英世
 - 台風が観測史上最多の10個日本に上陸
 - 鳥インフルエンザ発生
- 平成17年(2005年)
 - 小松島市財政非常事態を宣言
 - 小松島高校秋季全国高校野球大会優勝
 - ロンдон同時爆破テロ事件
 - スペースシャトルデスティニー「打ち上げ」日本宇宙飛行士野口聡ひと搭乗
 - 歌舞伎がユネスコの世界無形文化遺産登録
 - 郵政民営化関連法成立
 - 耐震強度偽装事件
- 平成18年(2006年)
 - JA東とくしま直売店「あいきい広場」オープン
 - 徳島赤十字病院新築・移転 ●市政マスター制度スタート
 - 日銀がゼロ金利を解除 ●景気はいざなぎを超え
 - 安倍晋三内閣発足
 - 第1回ワールド・ベースボールクラシック開催(日本優勝)
- 平成19年(2007年)
 - 小松島雨水ポンプ場完成通水(稼働)開始
 - 「J」日本郵政グループ(発足)
 - 米国のサブプライムローン問題で世界の経済・金融が混乱
 - 福田康夫内閣発足
 - 改正教育基本法成立
- 平成20年(2008年)
 - 県道花園日開野線バイパス開通 ●勢合雨水ポンプ場完成通水(稼働)開始 ●日本製紙小松島工場閉鎖、跡地へ阿波製紙進出
 - 麻生太郎内閣発足
 - 北海道新幹線(新青森)開業
 - 小林誠博士 益川素行博士 南部陽一郎博士 ノーベル物理学賞受賞
 - 下村博博士 ノーベル化学賞受賞
- 平成20年(2008年)
 - みなのオアシス交流広場」完成

2009→2020



平成30年／子育て支援センター「スマイルピア」開設



平成27年／市営バス廃止



平成24年／観光PR用マスコット「こまボン」誕生



平成31年／主要地方道小松島港線「江田バイパス」開通



平成28年／小松島南中学校開校



平成25年／立江町駐在所落成



令和元年／小松島まつりに合わせ「ニコニコ町会議」開催



平成29年／新舞祭場完成



平成26年／金機ポンプ場完成

- 平成21年(2009年)
 - 一般廃棄物(プラスチック)み等)及び資源(ごみ)紙類の処理業務民間委託
 - 新型インフルエンザ発生
 - 鳩山由紀夫内閣発足、政権交代
- 平成22年(2010年)
 - 市営バスの一部民間委託
 - 家畜伝染病(口蹄疫)発生●畜産人内閣発足
 - 小惑星探査機「はやぶさ」地球に帰還
 - 鈴木章博士「根岸英一博士ノベル化学賞」受賞
- 平成23年(2011年)
 - 徳島市と小松島市を含む周辺11市町村で定住自立圏形成協定を締結、市制施行60周年記念式典を開催、未来(ハミズキ)便などの企画を実施、縄文土偶が新居見遺跡から出土(県内初)
 - 東日本大震災
 - 九州新幹線鹿児島ルート開業
 - サッカーワールドカップ(ブラジル)世界に
 - 野田佳彦内閣発足
- 平成24年(2012年)
 - 小松島市広域観光案内所がJR南小松島駅舎内にオープン
 - 小松島市観光PR用マスコットキャラクター「こまボン」が誕生
 - 東京スカスカ「開業
 - 日本政府が「開国150周年」を記念して「ノベル化学賞」を創設
 - ノベル化学賞「ノベル化学賞」を創設
 - 安倍晋三内閣発足
- 平成25年(2013年)
 - 小松島市議会通年会期制を導入
 - 徳島小松島港赤石地区にて県運営のメガソーラー運転開始
 - 日本政府「TPP交渉参加表明
 - 2020年東京五輪開催地東京に決定
 - F1世界選手権「日本に
 - 特定秘密保護法成立
- 平成26年(2014年)
 - 皇太子殿下(現天皇陛下)が徳島県立みなと高等学園を訪問
 - 消費税8%開始
 - 改正生活保護法施行、不正受給の罰則強化
 - 御嶽山噴火、中村修二氏「ノベル物理学賞」受賞
 - 赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏「ノベル物理学賞」受賞
- 平成27年(2015年)
 - 小松島市営バスの運行が終了し、64年間の歴史に幕を閉じる
 - 恩山寺や立江寺などを含む「四国遍路」(回遊型巡礼路)と独自の巡礼文化「が日本遺産」に認定される
 - 北陸新幹線開業
 - 日本年金機構情報漏洩事件
 - スポンジ「発見
 - パリ同時テロ事件
- 平成28年(2016年)
 - 小松島南中学校が開校、阿波遍路道「恩山寺道」立江寺道」が国史跡に、第141回四国市長会議、小松島市で14年ぶりに開催し、国への要望案を決議
 - マイナンバー制度運用開始
 - 障害者差別解消法施行
 - 熊本地震発生
 - 18歳選挙権の改正公職選挙法施行
- 平成29年(2017年)
 - 第63回徳島駅伝で小松島市選手団が健闘し、総合成績3位
 - 新舞祭場が完成し、指定管理者により業務開始
 - イギリス、EU完全離脱を表明
 - 金正男暗殺事件
 - 陸上桐生祥秀「100m走で、9秒98
 - 日本ハム大谷翔平投手が米大リーグエンゼルス移籍
- 平成30年(2018年)
 - 小松島港(現徳島小松島港)貿易港指定70周年
 - 台湾でM6.7の地震
 - ポル・カキヤン「発見
 - 瀬田大橋「発見
 - 羽生結弦選手、史上最年少で国民栄誉賞を受賞
- 平成31年・令和元年(2019年)
 - 主要地方道小松島港線「江田バイパス」が開通
 - 小松島幼稚園、和島幼稚園が廃園
 - 日本と欧州連合(EU)の経済連携協定(EPA)発効
 - 大リーグ「メジャー」のイチロー「引退
 - フランクホルツ「発見
 - 改正平成(令和)「発見
 - ラグビーワールドカップ「発見
 - 消費税10%スタート
- 令和2年(2020年)
 - 新型コロナウイルス感染症の拡大により各種行事の延期中止相次ぐ
 - J.A東とくしま新本所が立江町にオープン
 - 新型コロナウイルスに横浜でクルーズ船停泊
 - 選抜高校野球初の中止●東京五輪開催延期●緊急事態宣言発出
 - 菅義偉内閣発足

Komatsushima Port, contiguous to the Seto Inland Sea and the Kii Channel, has long been flourishing as one of the best natural ports in Shikoku; and it has facilitated the city's development, taking an important role as the east gate of Shikoku and as the gateway to Tokushima Prefecture.

Chapter II

第2章

港 ま ち

小松島港は、古来より波静かな良港とうたわれ、
四国の東門、徳島県の玄関として重要な役割を担いながら、
小松島市の発展を支えてきた。

小松島港は背後に徳島市と小松島市を擁し、県海上交通の要衝として重要な役割を果たしてきた

小松島港潮風の記憶

小松島港は古くから天然の良港として知られ、
明治時代に行われた改修により
近代的港湾へと発展した。

In the Meiji era steel vessels had gradually taken over the role from wooden vessels in marine transportation, and accordingly deep-water ports were required. In 1899 Komatsushima Port was renovated, which made this city take the first step into a modern international port city.

明治になって次第に鉄船が増加するようになると、水深が浅いために入港できないという騒ぎとなり、明治三十二年（一八九九）海上輸送の重要性和町の将来を考え村営で小松島港の改修を実施。これを機に本市は近代的港湾都市への第一歩を踏み出したのです。

藩政時代には元根井と和田島に番所が置かれ、小松島浦では藩札の引き受け方や紺屋、藍商人が多く活躍し、江戸や大坂との取引が行われ阿波の商業・金融の中心地として栄えました。

小松島港は、四国東部の紀伊水道沿岸のほぼ中央に位置し、古くから瀬戸内海、紀伊水道に接する四国屈指の天然の良港として栄えてきました。
牟夜戸（撫養）、奥湖とともに『阿波国風土記』の遺文に記述のある中湖（ナカノミナト）の比定地でもあり中世期には、勝浦川上流から切り出された材木が、水運を利用して小松島津に運ばれていました。十四世紀、瀬戸内海で活躍していた小松島の船は、海賊船と区別するため唐梅の旗を立てており、この由緒から唐梅は昭和九年まで小松島町の紋章となっていました。
藩政時代には元根井と和田島に番所が置かれ、小松島浦では藩札の引き受け方や紺屋、藍商人が多く活躍し、江戸や大坂との取引が行われ阿波の商業・金融の中心地として栄えました。



九州から運んできた石炭の荷揚風景（飯原一夫画）、昭和15年に臨港鉄道敷設（昭和60年廃止）

臨海工業港湾都市

明治32年から順次進められた港湾の整備は、工場の誘致を促進させると同時に、市街地の拡張及び商業の発展に大きな役割を果たした。

A new port was constructed in 1934, and Komatsushima Port was approved as a treaty port in 1948; it played an important role as a foreign trade port. After it was approved as an important port in 1951, Komatsushima made rapid progress as a coastal industrial city, with its port facilities greatly improved and with manufacturing companies invited to set up their plants in the area.



明治三十二年の拡張整備を機に、翌年には小松島と徳島間の定期航路が開設され、やがて阪神と航路で結ばれるようになると、小松島港が徳島港を凌いで旅客貨物量を増大し、県下の海上輸送の拠点となりました。

昭和九年（一九三四）に新港が完成してからは、神田瀬川北岸に港および駅を中心として市街地が形成され、以来、港湾都市として発展。二十三年（一九四八）には開港場の指定を受け、外国貿易港としても大きな役割を果たすようになりました。

さらに、二十六年（一九五二）に重要港湾に指定されると港湾関連施設の整備も飛躍的に進展し、以後、船舶の大型化・ウエリー化・高速化に対応するため、旅客中心の本港地区に一万トン岸壁（昭和三十五年）を完成させ、湾域の変更により、地方港湾徳島港を含めて重要港湾小松島港となり（三十九年）、さらに工業的性格の強い金磯地区に一万トン岸壁（四十三年）、一万五千トン岸壁（四十八年）を次々と完成させました。港の整備とともに工場誘致や宅地造成が進み、小松島市は、重要港湾を擁する臨海工業都市として飛躍的に躍進しました。

昔の風景



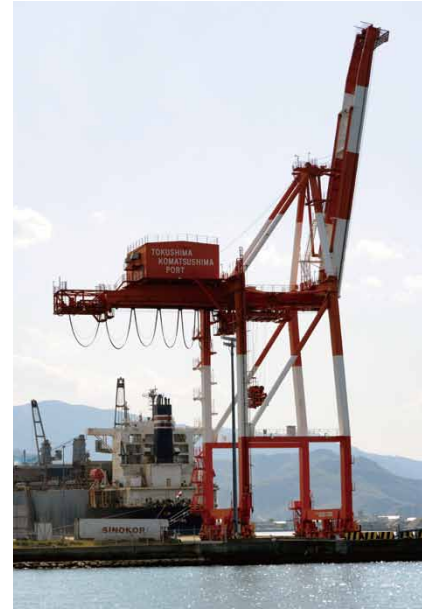
現在の風景



21世紀への港 海の未来へ

時代の変化に応じて発展してきた小松島港は、
環大阪湾を意識した事業展開を進める一方で、
国際貿易港としてさらに大きく羽ばたこうとしています。

The Komatsushima Harbor facing the Osaka Bay Area is the economic engine of Komatsushima City that drives the local industry. While striving to be eco-friendly as a public open space for residents, its improvement is to be promoted, installing an international multipurpose terminal that is equipped with gantry cranes and other facilities, and enables entries of large container vessels.



四国最大級のコンテナ荷役用ガントリークレーン



小松島港赤石地区大型公共埠頭

小松島港が昭和二十三年に外国貿易の開港場に指定されて以来六十年余。関西国際空港の開港、鳴門・明石海峡大橋の全通、さらには四国縦・横断自動車道の整備により、大阪湾ベイエリアに臨む小松島市にとって、小松島港は産業経済発展の中核であり、現在、小松島港に入ってくる外国船は年間約三五〇隻。その大半がアジア・アメリカなどから木材や紙の原料となるチップを運んでくる船で、小松島港は日本有数の木材の輸入港であり、徳島県における外貿の拠点となっています。

本港地区においては、「みなとオアシス交流広場」や「しおかぜ公園」など多目的スペースを整備し、港湾を中心とした賑わいの創出や観光の拠点づくりを図っています。また、赤石地区においては、二万トン級岸壁（平成十八年完成）を中心にコンテナ貨物に対応する大型コンテナ船の入港や効率的な荷さばきのためのガントリークレーン等を備えた多目的国際ターミナルの整備を推進し、今後東アジア貿易の玄関口として、市民に愛される港を目指します。

Komatsushima City has a lot of treasures, such as verdurous nature, beautiful sea, historic monuments reflecting vestige of the past, legendary places whose tales have been passed down from generation to generation, cultures of art forerunners have passed on to, all of which gleam, here and there in the city, as attraction of Komatsushima.

Chapter III

探 検

第3章

美しい自然、往時の面影が残る建物跡、語り継がれた歴史、先人達の残した芸術文化…。それらすべてが小松島らしさの魅力となつて、今もきらめいている。

四国霊場に4つある関所のうちの一つ「立江寺」の絵天井

小松島こころの風景

名勝・旧跡

ふるさと小松島市の史跡・旧跡・名勝地を顕彰し、本市の宝として長く後世に継承するため、市内19カ所に小坂奇石揮毫の石碑を建立しました。

(朝日多光氏の寄付により昭和56年建立)



地蔵寺



英国公使ハリー・パークス上陸地



豊國神社



名勝・千代の松原



名勝・日峰山



旗山



新居見城址



史跡・前山古墳



藤樹寺



五社大明神



勢合



史跡・弁天山砲台跡



四国霊場第18番札所恩山寺



源義経上陸の地



史跡・弁慶の岩屋 (県史跡指定)



柳瀬八幡神社



立江寺奥の院・新四国八十八カ所



お京塚



現福寺

Nineteen stone monuments were built throughout the city in honor of historic relics and ruins, historic sites, and places of scenic beauty of Komatsushima, which we hold dear to, so as to inherit them as the treasures of our city to future generations eternally.



玉類(勾玉・管玉・小玉・切子玉)
 芝生町の千羽ヶ嶽周辺の出土とされる。古墳の副葬品と思われる装身具で、碧玉製の勾玉・管玉や水晶製の切子玉、ガラス製の小玉など。

**胎蔵界曼陀羅図
 両界(金剛界・胎蔵界)曼陀羅図**
 (地藏寺蔵・個人蔵・県指定文化財)

それぞれ阿波藍で染めた縦横4m前後の絹本に金銀泥で描かれている。「高雄曼陀羅」を模写したもので個人所有のものは元々、釈迦庵に納められていたもので、その金剛界曼荼羅と地藏寺の胎蔵界曼荼羅が対となっている。



狩野元信筆雲龍
 (個人蔵・県指定文化財)
 「徳島の文化財」(徳島県教育委員会・徳島新聞社発行)掲載
 墨絵の大幅で、狩野元信(1476~1559)の筆と伝えられる。蜂須賀家より拝領したという由緒からも時代的に古いとみられるものの、元信の筆として残るものがすくないので比較検討がむずかしい。一応伝元信筆としておくべきだろう。(縦121.5cm 横192cm)

**南海地震徳島地震津波碑
 (豊浦神社石碑)**
 (豊浦神社・国登録記念物)

安政の地震の際に多くの被害があったが豊浦周辺の人々は、白染天王社(現・豊浦神社)に集まって難を逃れたことが刻まれている。

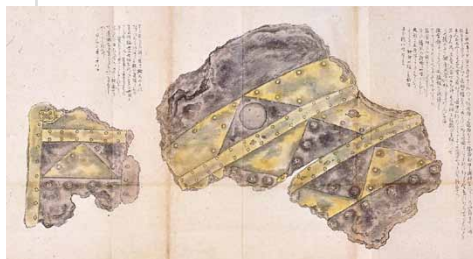


絹本着色桃花孔雀雄・西王母・牡丹孔雀雌図
 (個人蔵・県指定文化財)

松浦春拳特有の手法を用いた緻密な作品で、天保13年(1842)の作。西王母と羽根を広げた孔雀を中心に桃と牡丹を描いた三幅対。西王母が青鳥に守られた故事より図化。

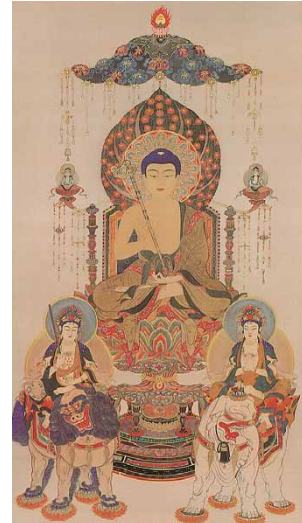
金銅装甲冑片
 (市教育委員会・市指定文化財)

金で装飾された古墳時代中期のカブトとヨロイ。国内で同様に金銅装の甲冑がセットで出土しているのは、伝・仁徳天皇陵だけであり、その稀少性からもヤマト王権との深い繋がりがみとれる。子安観音塚古墳の副葬品と思われるが、江戸時代に大雨により出土したことがあり、守住貫魚により描かれた絵図が残っている。



三角板鋸留短甲復元図(橋本達也氏の復元案に着色)

文化財図鑑
 古代より荘園が置かれ、海陸交通の要衝として栄えてきた小松島は、古くから大阪、神戸、和歌山など近畿圏との結びつきが強く、貴重な文化財が数多く残されている。



絹本着色釈迦三尊像
 (立江寺・国指定重要文化財)

四国霊場第19番札所で八十八カ所の4つの関所の一つ立江寺の寺宝。鎌倉時代の名作。釈迦如来と白象に乗った普賢菩薩、獅子に乗った文殊菩薩がリアルに描かれた気品の高い作品。



袈裟襷文銅鐸
 (徳島県立博物館・県指定文化財)

田野町勢合から1個出土した銅鐸。扁平鈕式の六区画袈裷文銅鐸で、鈕の部分を一部欠損した状態。高さ39cmある。



恩山寺ピランジュ
(恩山寺・県指定天然記念物)

恩山寺山門を入ったところにある、空海の手植えと伝えられる巨木(樹高18m)。樹周1~2mの三樹が合体して一株となり、東西19m、南北18mに及ぶ。樹姿の優れているものは珍しい。



天王社稚児三番叟
(田野町・県指定無形文化財)

室町時代から伝承されてきたもので、猿楽の能「翁」を原型としたものといわれ、毎年10月第4土・日曜日の天王社の秋祭りの日に、神前の舞台上で厳かに行われる。

櫛淵のフウ

(櫛淵八幡神社・県指定天然記念物)

櫛淵八幡神社境内にあるマンサク科の落葉喬木。大正の初め頃に敬義会のメンバーが植えたもので、成長が早く今では樹幹の周囲が2m近くに及んでいる。紅葉が美しい。



弁慶の岩屋

(県指定史跡)

旗山の近くの丘陵の中腹に7世紀後半につくられた古墳で、巨大な自然石を使って作られた横穴式の石室があり、強力な弁慶でなければできないだろうと名付けられた。



法華経

(桂林寺所蔵・県指定文化財)

黄染紙に木版刷りの巻子本、全部で8巻。文安4年(1447)足利将軍家より阿波細川家第6代細川持常が賜ったもの。



地藏寺玄関および書院

(県指定文化財・建造物)

足利氏ゆかりの平島公方の館を文化3年(1806)年に移築したとされるもので、江戸中期から後期の特色をよく示す風格ある建物。本堂玄関の太い柱が特徴。



金磯のアコウ

(金磯町・県指定天然記念物)

アコウは桑科に属する熱帯産の常緑喬木で、弁天山の北側に自生しているアコウは我が国における自然分布の北限を示すものとして学会で紹介されている貴重なもの。

その他の県指定文化財

木造阿弥陀如来立像

(成願寺・県指定文化財)

像高179.2cm。素材の木目を巧みに生かした楠木の一本造り。丸味のある容姿、衣文線の重厚さから平安前期の作と思われる。

木造薬師如来座像

(現福寺・県指定文化財)

現福寺の本尊。弘法大師の作と伝えられる像高83cmの寄せ木造り、左右に12神将が配されている。面相は円満な慈悲相で鎌倉初期の作。

Komatsushima has a close connection with the Kinki region including Osaka, Kobe and Wakayama, and has been flourishing as an important center of transportation by land and sea since its early days. Therefore, a large number of important cultural treasures, such as Buddhist architecture, artistic handicrafts, paintings, calligraphic works, Buddhist statues and traditional dances, have been preserved in the city.

小松島の 民話・伝説

恵まれた自然の中で、古くから豊かな文化を育んできた本市には、
小松島独特のユニークな民話や伝説が残され、
今も人々によって大切に語り継がれている。

Unique folktales and legends, peculiar to Komatsushima, have been passed
down from generation to generation in this city, where affluent culture has been
advanced in abundant nature for a long time. Some of the tales are: "Kincho
Daiko," where a raccoon dog was supposed to be a heroic character; and
"Kobodaishi no tsue no mizu," where a famous monk did wonders.



弘法大師の杖の水

ある夏の日、貧しい旅の僧侶が近くの農家で水を飲ませてほしいと頼んだが、農家の主人は「この辺りの井戸水は塩がさして飲めない」と断った。僧侶が立ち去った後、この主人が水を飲もうとすると、今までおいしかった水が塩辛くなっており、それからこの地の水は飲めなくなってしまう。僧侶は弘法大師だった。数年後、再びこの地を訪れた弘法大師は、人々が困っているのをあわれに思い、持っていた杖で地面を突くと真水が噴水のようにあふれ出た。それから後は、水に困ることもなく、人々は弘法大師に深く感謝するとともに、この井戸を大切に使った。



お玉大明神

台風が来るたびに堤防が決壊して水害に苦しめられていた人々は、ある年「ここに人柱を立てる他はない」と決断し、翌朝一番にこの場所を通った者を人柱にすることに朝を待った。次の朝、最初に現れたのは美人でやさしいと評判のお玉さんで、事情を話すと「大勢の人が救われるのなら」と自ら水底深く沈んで

で行った。人々は涙を流し、念仏をとねえながらこれを見送った。以来、どんなに強い台風が来ても水害に見舞われることはなく、お玉さんの加護に感謝し「お玉大明神」を建てて霊を祀った。



おかめ磯物語

かつて、「おかめ磯」という所には千軒の家があり、みな平和に暮らしていた。この氏神様には古くから、鳥居に鷲がとまり、狛犬の目が赤くなるとこの島は海に沈むという言い伝えがあったが、ある日、島の若者達は、毎朝この氏神様にお参りに来るおばあさんを脅かしてやろうと、狛犬の目を赤く塗り、鷲の羽根を鳥居に置いた。これを見たおばあさんは恐怖に身を振るわせ、すぐに家に帰ると、島の人々に逃げるように勧めたが、だれもとおりあう者はなく、家族とともに家財を船に積み込んで芝山へと逃げた。すると、島はにわか黒い雲



に覆われ、山のような大津波が押し寄せて一夜のうちに海底に沈んでしまったという。

田野久

今から二〇〇年ほど昔、田野村に住む久兵衛、愛称「たのきゅう」という旅役者が、讃岐の巡業中に父の重病を知らされ、真夜中の大坂峠を急いでいた。突然「おまえは誰じゃ」と呼び止められたが、急いでいたので「たのきゅう」と叫んで通り過ぎようとする時、そこにはうわばみ(大蛇)がとぐろを巻いていた。「たのきゅう」を「狸」と間違えたうわばみが「狸なから俺と化けくらべをしよう」というので、久兵衛は素早く得意の女形に変装すると、驚いたうわばみはあっさり負けを認め、「おまえは世の中で一番怖いものは何だ」と問いかけてきた。久兵衛が

「お金だ」と答えると、うわばみは「俺はたばこのやにと柿のしぶをなめると死んでしまう。このことは誰にもいうな」と洞窟の中へ入って行った。無事に麓へたどり着いた久兵衛は、村人達にこのことを話し、村人達がたばこのヤニと柿のしぶを集めて洞窟の入口に積み上げたものだから、怒り狂ったうわばみは、息も絶え絶えに久兵衛の家までやってきて大判、小判をざくざく降らせて立ち去った。間

もなく父の病気も治り、久兵衛は村一番のお金持ちになったとき。

金長たぬき

江戸時代の末頃、日開野に金長という狸が住んでいた。ある日、村の子供たちにいじめられていた金長は、染物屋の主人・茂右衛門に助けられ、恩返しのため屋敷に移り住んで守り神となり、店は大いに繁盛した。その後、金長は狸界の大物・六右衛門のもとに弟子入りしたが、六右衛門は人をだます悪い狸で、金長の才覚に目をつけ養子縁組を迫るのだった。金長は染物屋との約束があるからと断り、怒った六右衛門は自分を引き連れて闇討ちする。傷ついて日開野に帰った金長は家来の仇討ちを誓い、県南の狸たちに呼びかけて六右衛門討伐の兵を挙げた。こうして勝浦川を挟んで総勢数百匹の狸の戦いが繰り広げられた。これが世にいう「阿波狸合戦」である。激しい攻防の末に最後は金長と六右衛門の一騎打ちとなり、金長が勝利したものの、三日後には染物屋の主人に看取られて死んでしまった。彼の生きざまに感激した主人は金長を「正一位金長大明神」として末永く祀ったという。



ロマンをつなぐ プロムナード

義経の足跡をたどる「義経ドリームロード」、
「史跡・名勝めぐりコース」、
「ミニ四国八十八カ所」など歩き方いろいろ。
このまちで、心ときめく出会いが待っている。

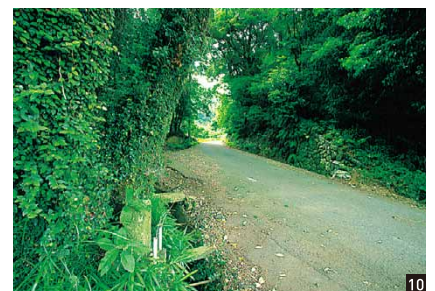


昭和五十六年、ふるさと小松島市の史跡・旧跡・名勝地を顕彰し、本市の宝として長く後世に継承するため、市内十九カ所に石碑を建立した。

- 名勝・日峯山
- 名勝・千代の松原
- 豊國神社
- 英國公使ハリー・パークス上陸地
- 地藏寺
- 五社大明神
- 藤樹寺
- 史跡・前山古墳
- 新居見城址
- 旗山
- 史跡・弁慶の岩屋
- 源義経上陸の地
- 四國霊場第十八番札所恩山寺
- 史跡・弁天山砲台跡
- 勢合
- 現福寺
- お京塚
- 立江寺奥の院・新四国八十八カ所
- 櫛淵八幡神社



恩山寺



弦張坂



立江寺

Chapter III

Let's take pleasure in beautiful scenery of sea and mountains, and romanticism in history having an outing to "Yoshitsune Dream Road," where one can visit the course that Yoshitsune Minamoto had followed; a course of a trip to historic relics and places for enchanted beauty; and the miniaturized Eighty-eight Holy Places of Shikoku.



展望広場 (日峰山頂)



ミニ八十八カ所



金長神社例大祭



自転車歩行者専用道路



「渚の夏祭り」地引網



義経騎馬像



義経夢想祭



弦巻坂

So as to make Komatsushima dear to the hearts of us more enjoyable and energetic, all kinds of people have set themselves to form a unique community, peculiar to Komatsushima, throughout the city.

Chapter IV

第4章

演出

ふるさと小松島市をもっと楽しく元気なまちにしようと、
いろんな人々が立ち上がり、小松島ならではの
ユニークなまちづくりがあちこちで始まった。

たぬきのまちづくり

民話『阿波の狸合戦』の舞台となった小松島市では、金長狸は商売繁盛の神様として人々に親しまれ、狸をテーマにしたユニークなまちづくりが行われている。

日本全国に狸が登場する民話は数多くありますが、その中でも特に有名なのが『阿波の狸合戦』です。この話は藩政時代の小松島を舞台にした民話で、話の真偽はともかく、この中に登場する染物屋の主人・茂右衛門は実在の人物。明治末期に大坂の講談師が演題に取り入れて一世を風靡したことから、講談本と茂右衛門の直系の子孫・梅山家に残る言い伝えをもとに、昭和十三年「天下分け目の阿波たぬき合戦」(新興キネマ・後の大映)が映画化され、空前の大ヒットとなりました。

そのお礼にと、当時の映画関係者らが日峰山麓に金長大明神という小さな社を建てたのが、金長神社の始まりです。戦後、再び映画化されて大ヒットし、大映の永田雅一社長らの寄付によって昭和三十三年(一九五七)現在の場所に金長神社が建てられました。以来、商売繁盛の守り神として多くの人々が訪れています。

この他にも、金長の名の付くものは市内の至る所にあり、遊歩道の壁面やバスをはじめ、紙芝居や芸能、食堂やお菓子と大活躍しています。平成元年には、市内の新港郵便局が改名して「金長たぬき郵便局」が誕生しました。動物の名前についた郵便局は全国で初め

A famous folk tale in Komatsushima "Awa no tanuki gassen" was made into a movie and became popular. The heroic character, a raccoon dog named "Kincho Danuki", is loved by people as a God for flourishing business. We are working on using the raccoon dog in our community as a symbol of our city.

てで、オリジナルのためき形の風景印や狸の絵はがき、ふみカードが人気を呼んでいます。

また、平成三年には、市内の若者達によって金長狸をイメージした「金長太鼓」が結成され、これまでの和太鼓のイメージを打ち破る、陽気で明るく愉快な演奏を披露しています。平成十年(一九九七)には、金長民話を語り継ぐ市民講談師を育てようと「阿波狸合戦講談語り部養成塾」を開講するなど、市をあげて狸のまちのイメージづくりに取り組んでいます。



小松島市創作太鼓振興会は、「ふるさと創生一億円事業」の小松島の地域づくり団体として、小松島市が市制を施行して四十周年を迎えるという節目の年に産声をあげました。

源平合戦、屋島の戦いに向かう源義経軍が小松島に上陸した所縁から行軍をイメージした勇壮な和太鼓曲「義経太鼓」と、「阿波狸合戦」における主役格で小松島では有名なたぬきの「金長」をモチーフに、陽気な阿波の国の「阿波踊り」に象徴される浮かれた様子を表現した「金長太鼓」。故三木稔先生に作曲を頂いた、二つの創作太鼓を演奏しています。

和太鼓は、神事や祭事など、昔から地域に密着した催しを通して親しまれ、また、伝統芸能として継承されてきましたが、近年は、郷土を代表する伝統芸能として、また「日本の心」を伝えるものとして見直されています。

和太鼓の魅力として、「気軽に始められる」点が挙げられますが、チームワーク、息を合わせることがとても大切で、「叩く」というシンプルな動作により生まれる響き、ダイナミックな動きが、集団として協調する様は本当に魅力的だと思っています。

創設から三十年まだまだ未熟な演奏・演出ではありますが、和太鼓の伝統を継承し、地域の活力となる新たな魅力を普及させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

小松島市創作太鼓振興協会 会長

立川 晶規 さん

医療・福祉が連携した街の再生

昭和六十年に旧小松島線が廃止され、また平成十二年には旅客航路がすべて廃止されました。その反面、中心市街地の再生に取り組み、生涯学習センターや市立図書館、保健センター・ミリカホールなど、様々な都市施設設備を中心市街地に集約し、現徳島赤十字病院を核とした福祉・教育・医療・就労の一大総合支援ゾーンを形成しています。

なかでも徳島赤十字病院は、二十四時間診療機能を有する「高度救命救急センター」や地域医療支援病院等の特殊機能を備え、市外に向けても大いに誇れる本市の魅力の一つとなっています。

平成一八年五月に現在の場所に新築移転した徳島赤十字病院は、平成二九年に病棟の増改築を行い、重症患者の受入病床の拡充、PET・CT（陽電子放出断層撮影）の導入によるがんの診断・治療機能の強化などを実施。多様化する医療ニーズへの対応を図っています。

また、毎月開催している「市民公開講座」や近隣高校の学生に患者さんとのふれあいをとおして看護の喜びや大切さを知ってもらう「ふれあい看護体験」、医療体験コーナーなどの様々な催し物が行われる「病院祭」など、地域と連携したイベントや事業にも取り組んでいます。



The revitalization project of the city center was launched, in order to regenerate and redevelop the area after the railway and passenger ship routes to the city center were closed. Among a variety of measures, high expectations are placed on the projects through the promotion using the Tokushima Red Cross Hospital, the goal of which is to improve the standards of the welfare, educational and medical services and the employment rate comprehensively. Additionally, many events such as the festival featuring a racoon dog, a symbol of our city, are being held to attract people in and outside of the city.

徳島赤十字病院の原点

徳島赤十字病院のルーツは、戦後復興期の昭和二十四年に小松島町立診療所が日本赤十字社徳島県支部に移管され支部診療所となったことに発します。その後、「小松島赤十字病院」として六十床での入院診療を開始し、病院の発展とともに五百十四床を有する総合病院となりました。平成十三年四月には、病院名を「徳島赤十字病院」に改称し国指定の救命救急センターを設置。平成十八年五月には現在地に病院を新築移転し、四百五床にダウンサイジングしながらも六百五十床レベルの高稼働をあげる超急性期病院として、国内で四十二施設しかない高度救命救急センターの認定を受け、名実ともに徳島県を代表する総合病院へと成長しました。

今後、徳島赤十字病院は、小松島市民のための病院という原点を忘れることなく、さらに高度先進医療・救急医療・災害拠点などの機能を充実させることにより南部医療圏の中核都市としての小松島市の地位を確たるものとし、その発展に寄与してまいります。



後藤 哲也さん
徳島赤十字病院院長

全国初 発達障がい者総合支援ゾーンが完成！

発達障がいとは、自閉症やアスペルガー症候群など、通常、幼い頃から症状が現れる脳機能障がいの総称です。どのような能力にどの程度障がいがあるかは、人それぞれであり、発達障がいには、早い段階からの周囲の理解と二人ひとりの特性に応じたきめ細やかな支援が大切です。

そこで、旧徳島赤十字病院跡地を活用し、発達障がいのある方々を、福祉・教育・医療・就労の各分野から総合的に支援する全国初の拠点づくりに着手。小松島市の花「花みずき」にちなみ、「ハナミズキプロジェクト」と名付けた取り組みが、平成二十四年四月、「発達障がい者総合支援ゾーン」として花開きました！

ゾーンには、福祉機能を担う総合窓口「発達障がい者総合支援センターハナミズキ」、発達障がいのある学生の社会的・職業的自立に向け専門的な教育を行う「みなと高等学園」、病院機能を持つ社会福祉施設「徳島赤十字ひのみね総合療育センター」、さまざまな理由から家庭で養育できない乳幼児をお預かりする「徳島赤十字乳児院」の四施設を設置。それぞれの専門性を生かした支援をはじめ、相互の連携や外部機関との協力により、乳幼児期から成人期まで各ライフステージに応じた支援を行っています。



徳島赤十字ひのみね総合療育センター
徳島赤十字障がい者支援施設ひのみね
の活動と役割

当センターは、福祉施設と医療施設としての機能を併せ持つ治療・看護・保育・リハビリなどの総合支援施設として、利用児者が自立した生活を送れるよう支援しております。その中で、十八歳未満の肢体不自由児及び重症心身障がい児を対象とした医療型障がい児入所施設と、十八歳以上の重症心身障がい者を対象とした療養介護について、一体的な運営を行っております。

また、障がい者支援施設を併設しており、十八歳以上で常時介護が必要な障がい者に対し、生活介護と施設入所支援のサービスを提供しています。

平成二十四年から当施設を含めた徳島県発達障がい者総合支援センターハナミズキ、徳島県立みなと高等学園、徳島赤十字乳児院を発達障がい者総合支援ゾーンとして、各施設が連携し発達障がい児者やその家族の方々に対して支援を行っています。

今後、総合的な福祉サービスを提供できる施設として、より広

い範囲の地域の障がい児者関係の方々に対応できるよう、積極的に取り組んでいきます。

徳島赤十字ひのみね総合療育センター
徳島赤十字障がい者支援施設ひのみね園長
中津 忠則さん

徳島県立みなと高等学園の
活動と役割

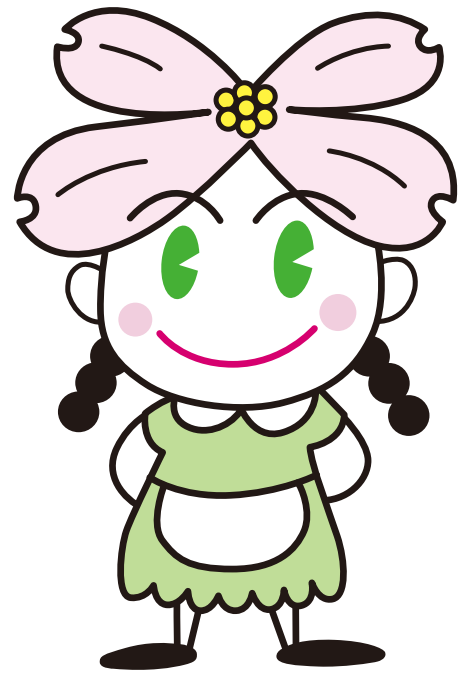
徳島県立みなと高等学園は、平成二十四年四月に開校した全国で初めての病弱または知的障がいを伴う発達障がいの生徒を対象とした特別支援学校です。高等部のみを設置し卒業後の就労に向け、普通教科の学習に加え、校外では企業や就労支援施設等と連携した現場実習を、校内では販売実習、木工、園芸、清掃、介護等の実習を行っています。これらの学習を通して自己管理能力や集団生活への適応能力、働くための基礎的・基本的な知識や技能、働く意欲や態度等を養い、社会的・職業的に自立した心豊かな人材の育成に取り組んでいます。また、巡回相談事業にも取り組み、県内の高等学校に在籍する発達障がいの生徒に対する支援も行っています。

徳島県立みなと高等学園校長
青木 秀雄さん

花みずきの 咲く風景

日米親善の花の交歓が行われてから百年、小松島市民の手で育てられた花みずきは、市内各所に花を咲かせ、昭和五十三年（一九七八）にはアメリカ大使館との交流も始まった。

小松島市では、小松島市青年会議所が中心となって、明るく住みよいまちづくりをめざして花みずきの植樹運動を展開しています。この運動は、昭和五十一年（一九七六）青年会議所メンバーの発案によって始まり、後に「花水木を育てる会」が結成され、以来、市内各所に植樹を行うとともに、市民に販売して各家庭の庭で育ててもらおうと、さまざまな運動を展開してきました。こうした地道な育成活動の積み重ねによって、昭和六十三年には正式に小松島市の花として制定され、市内各所に根付いた花みずきは、四月下旬から五月にかけて白やピンクの可憐な花を咲かせては、市民に憩いと潤いを提供しています。



みずきちゃん

A tree-planting campaign for flowering dogwoods has been going on since 1976. The local residents' decades long efforts have made the trees' roots deep in our city. The lovely white and pink flowers bloom in the spring throughout our city.

「想いを伝える」 花水木運動

「今年の花水木は、静かに寄り添って励ましてくれる気がします」と話してくれた方がいました。花水木の花言葉は「想いを伝える」です。

きつとコロナ禍の不安な気持ちから、可憐な花を見てそんな想いが伝わったのだと思います。

最近の花水木を育てる会の事業は「ハナミズキ秋の音フェス」を開催し、音楽とともに市民の皆様へ想いを伝える新たな事業を展開しています。

そして数年前には、「日峯大の子広域公園」で昔のように写生大会の被写体など身近に寄り添って親しんでもらえるように「花水木エリア」では「上から眺める花水木も綺麗ですよ」とのお声を頂き、新たな魅力を伝える花水木を楽しんでもらえると思います。

花水木を育てる会

会長 中川 正道さん



市民の命を守る津波避難施設「希望の丘」完成！



いづどこで発生するかわからない災害に対して、小松島市では「防災・安全の確保」を主要な施策として掲げ、様々な防災・減災の取り組みを進めています。

ハード面では、南海トラフ巨大地震発生時に津波の到達が予測される和田島地区の小松島ニュータウン内に、平成二十八年七月、西日本で初となる盛土式の津波避難施設「希望の丘」が完成しました。海拔六・六mの頂上には、約九百二十人を収容（二人/mを基準とした場合）できる緊急避難場所が設けられています。同施設は、津

波発生時の一時避難場所となる他、平常時における防災訓練、市民の健康づくりや憩いの場として活用されるなど、地域に親しまれる公園としても利用されます。

またソフト面では、平成二十七年度から市内の各小学校を会場として、毎年一回小松島市総合防災訓練を実施。海上自衛隊や県警、各消防団、医療機関など、小松島市内外の諸団体とも連携し、地域の防災力の向上に努めています。想定される大規模災害に備えて、市が一体となって命を守るまちづくりを進めています。

夢の花咲く広場で



世界一の大きなたぬき像は市のシンボル。
ノスタルジックな雰囲気が魅力の都市型公園
「小松島ステーションパーク」には、
楽しいスペースがいっぱい。



“Komatsushima Station Park” is an urban park built at the site of the old Komatsushima Station, which evokes nostalgia for the olden days when the station presented a lively scene. The park has five squares and a city library, where “Promenades” are connected in between. The world’s largest bronze statue of a raccoon dog, which is 5 meters tall, in “Tanuki Hiroba” is the symbol of Komatsushima City.



「小松島ステーションパーク」は、昭和六十年三月に廃止された旧国鉄の小松島駅跡地を整備して造られたもので、駅がにぎわっていたころの郷愁と、ゆとりとやすらぎのある都市型公園です。

その広さは二四、〇〇〇平方メートルに及び、園内には、野外ステージや狸像のある「たぬき広場」、客車を利用したギャラリーのある「SL記念広場」、砂場や遊具を配した「わんぱくコーナー」、地場産品を紹介する「物産ひろば」、市の歴史を紹介する「記念碑ひろば」など五つの広場と、「生涯学習センター（市立図書館）」があり、それらを緑豊かな散策の道「プロムナード」が結んでいます。

「たぬき広場」にある高さ五メートルの世界一大きな狸の銅像は、小松島市のシンボル。たぬきの前で手をたたくと後ろの高さ十メートルの人工滝から水が流れ落ちるといふユニークな仕組みになっており、遊歩道に並ぶ愛嬌たっぷりのたぬきの石像たちも、訪れる人々の目を楽しませてくれます。

ステーションパークから中田駅へと続く旧国鉄小松島港線の線路跡地（二、四〇メートル）は、平成五年度までに自転車歩行者専用道路として整備されました。さらに、隣接する市街地の小路の景観も小京都的な趣に整備され、市民のうるおいとやすらぎのある快適な道として、また通勤・通学・買い物に安全に利用できる道として親しまれるとともに、街に美しい景観をそえています。

しおかぜ公園

平成十二年春、小松島港口に「しおかぜ公園」が完成しました。「みなどに親しみが持て、たのしく、くつろぐことのできる日常的空间の創出」をテーマに、徳島県が整備を進めていた都市公園で、園内には、海のモニュメントや飛行機をイメージした遊具があり、多くの家族連れや若者達でにぎわっています。

In the spring of the year 2000, "Shiokaze Koen" was provided for the entrance of Komatsushima Port with "Creating a day-to-day space where people can enjoy, relax and familiarize with the port." as its theme.



展望広場(日峰山頂)

標高一九二メートル。市の北端、徳島市との境にある日峰山は、阿波三峯の一つ。山頂からの眺めはすばらしく、小松島市内を眼下に、北は紀伊水道を望み、鳴門・淡路を経て和歌山地方を遠望でき、西は勝浦川の流れの向こうに徳島市が見えます。山頂には日峰神社があり、桜の名所としても知られ、ドライブに最適です。

"Mt. Hinomine," in the northern extremity of the city and on the border of Komatsushima and Tokushima cities, commands a fine view and has "Hinomine Shrine" on the top. The mountain is noted for its cherry blossoms and is best suited for a drive.



心やすらぐ水辺で

水は大地を育み、人々の暮らしに潤いと豊かさをもたらす貴重な地域資源です。

心地よい潮風をうけながら健康づくりのウォーキングができ、誰もが快適に集う憩いの場の整備がすすめられています。

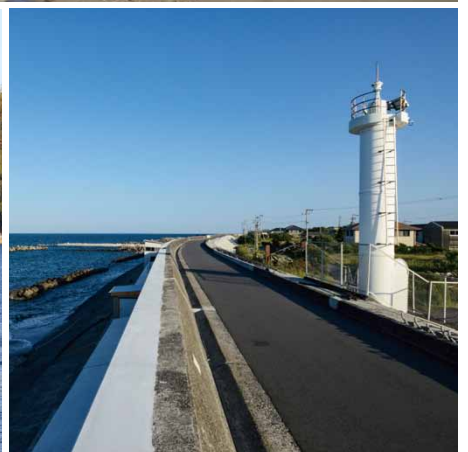
The water has always been one of the most crucial regional resources, which nurtures the life of the planet and sustains our affluent, healthy living. Walk roads and recreation areas are being built near water, where people can enjoy their exercise and community activities.



平成八年、小松島市和田島町の坂野
今津海岸、延長六、二七〇メートルに、
沖一五〇メートル、横二二〇メートルの
新しいT字型突堤が誕生しました。こ
の事業は、建設省（現国土交通省）が平
成四年度から全国八カ所で進めている
「なぎさリフレッシュ事業」の一つで、堤防
や消波ブロックで海辺と住民が隔てら
れている海岸線を見直し、人工の砂を
投入するなどして快適ななぎさを生
み出そうというものです。

この事業が、全国に先駆けて小松島市
で行われた背景には、地元の漁協をはじ
め、小学校・中学校・公民館地域住民らが
一体となって行った海岸美化活動や「岬
フェスティバル」の開催などがありました。
また、平成五年より瀬戸内・海的路ネッ
トワーク推進協議会の主要事業としてリ
フレッシュ瀬戸内が始まったことに伴い、金
磯横須海岸においても環境美化活動に
加え、あさりの放流、漂着ごみ調査等環境
意識の啓発に取り組んでいます。

さらに、徳島小松島港本港地区に
おいては港湾環境整備事業として
「みなとオアシス交流広場」が整備さ
れ、「しおかぜ公園」に抜ける新たな
にぎわいスペースの整備も進められて
います。



橋のある風景

私たちのふるさと小松島市は、剣山系からもたらされる豊かな水に恵まれた水郷でもあります。市内には勝浦川、神田瀬川、立江川が流れ、そこに架かる橋には地域の特徴を活かした個性的なデザインが施され、私たちを楽しませてくれます。

街の中心部を流れる神田瀬川には、八千代橋・千歳橋・神代橋・蓬萊橋・道開橋と、めでたい名称の橋が続きます。

また近年は、橋の架け替え作業が進んで新しい橋が次々と完成。門前町の面影をしつらえた「平成橋」、県鳥しらさぎのレリーフが美しい「立江川橋」、東四国国体剣道競技の会場となった市立体育館・武道館横にある「小田浦橋」には、親柱の上に剣道着姿のかわいい子狸が立っています。源義経像のある旗山近くには、源氏橋、義経橋が、さらに上流には弁慶橋、牛若橋、恩山寺谷川には弘法大師ゆかりの朱塗りの母養橋も完成しました。橋の名前の中にもさまざまな物語が見えてくるようです。



悪人が通りかかると必ず白鷺が舞い降りるという言い伝えのある「白鷺橋」(平成13年改修)



欄干に市の花・木、小松島港の風景をあしらった「八千代橋」(平成3年開通)



白鷺のレリーフが魅力的な徳島南バイパス「立江川橋」(平成3年開通)



大正時代から街のシンボル。レトロ調の「千歳橋」(平成8年掛け替え)



かつての川港の風景をプレートに描いた「道開橋」(昭和32年架設)



藩政時代からある「神代橋」、親柱に勾玉をあしらう(平成5年改修)



港にハナミズキをあしらったモニュメント風の親柱が印象的な「蓬萊橋」

水は大地を育み、人々の暮らしを潤す貴重な地域資源です。波静かな海辺で、ふるさとの川で、いま新しい快適環境の整備が進められています。

Komatsushima City, which touches us, is also a riverside district enjoying plenty of water produced in the water system of Mt. Tsurugi. Through the city center, the Katsuura, the Kandase and the Tatsue River run, and the bridges across the rivers are so uniquely designed that passers-by take delight in looking at them. Also, the names of the bridges derive their origin from various episodes, which is entertaining to know about.



勝浦川橋



国体開催記念・剣道着姿の子狸の銅像がかわいい「小田浦橋」(平成2年開通)



天王谷川上流に平成4年以降に完成した「弁慶橋」



元根井川用水路に昭和10年に架けられた「彌生橋」(平成5年改修)



旗山近くに架かる「源氏橋」。
親柱に源氏の紋章「笹龍胆」のレリーフが



かつて門前町であった立江の風情が薫る「平成橋」
(平成2年開通)



狭く老朽化した潜水橋を上流に架け替えた「野上橋」
(平成5年開通)



昭和14年に開通した旧赤石橋を
平成5年に改修した「あかいしこう橋」



源義経伝説にちなんで名付けられた「牛若橋」



親柱に義経の騎馬像の銅板がはめ込まれている「義経橋」
(平成4年完成)



小松島ステーションパークの自転車歩行者専用道路にある「瓢橋」



母養山恩山寺の登り口にある朱塗りの橋「母養橋」

小松島名水物語

水は、命を育むかけがえのない財産であり、美しい自然のバロメーターでもあります。剣山系から流れ出す豊富な地下水が、天然の浄化装置の中をくぐり抜け、小松島湾に注いでいます。小松島市は、まさに無数の水系の上に浮かぶ街といえるでしょう。往古より、私たちは掘り抜き井戸によってこの名水を日常生活に利用してきました。名水は人々の喉ばかりでなく、心を潤しながら、今も清らかに湧き続けているのです。



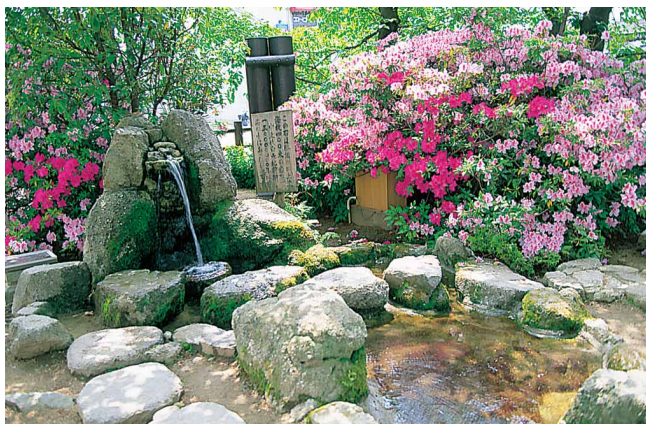
弘法大師 お杖の水

四国各地に残る空海伝説の井戸の一つ。弘法大師が、持っていた杖で地面を突くと清水が噴水のように湧き出たと伝えられる名水。この井戸は、どんなに降水量が少ないときでも涸れることなく冷たい清水を湛えています。



希望の泉

小松島高等学校体育館の前庭にある名水。同高校の同窓会が創立60周年を記念して地下水を汲み上げ、「希望」「融和」「発展」をイメージしたモニュメントを建設したもので、名称も全校生徒から公募して付けられました。



のぞみの泉

JR南小松島駅公園の一角に、小松島ライオンズクラブが結成30周年を記念してつくったもので、名前は市民から募集しました。水を湛えている石組みの岩石は勝浦川上流の中生代白亜紀前期以前に海底にあったものです。

The natural ground water is abundant in Komatsushima City, and in daily life people have made use of the nice and pure water drawn from an artesian well. The fine water has been springing out, appeasing not only our thirst but also our feeling.



アイデアの泉

小松島市生涯学習センターの庭に、永遠不滅の心理と理想を追求する象徴として建てられた名水。19世紀フランスの画家アングルの作品「泉」を原形とする乙女の像の水瓶からは、アイデアの水が豊かに溢れて出ています。



宝寿水

市のほぼ中心部に位置する名刹・地藏寺の境内にある名水で、阿波藩主足利公方が来訪した際に所望し、賞賛された名水と伝えられています。掘り抜き井戸のおいしい水を守ろうと「小松島浄水保存会」が復活させたものです。



希望の滝

小松島ステーションパークの狸広場にある高さ10m、幅30mの滝。この滝は、小松島市のシンボルである世界一の狸像の後ろにあり、像の前で手を叩くとセンサーが反応して水が流れる仕組みになっています。



名水 銀輪

競輪ファンサービスの一つとして、平成2年に旧西門近くに建設されたもので、一枚岩の青石から流れる水は、自然水ならではの風味が味わえます。平成5年に西側スタンドを建て替えた際に、現在の場所に移されました。



遊歩道のせせらぎ

小松島ステーションパークからJR中田駅までの遊歩道の脇に、サラサラと小さな水音を立てて流れる長さ100mほどのせせらぎがあります。側面の植栽や街頭と調和し、散歩を楽しむ市民の憩いの場となっています。



48回国体開催記念の泉

平成5年の第48回国民体育大会の開催を記念して建てられたもので、水を湛える造形は、当時の小松島市の都市像である「太陽と水とみどりの湾港都市」をイメージするとともに、住民・議会・行政の強い絆を表しています。

Deep affection to Komatsushima, by each individual citizen, creates the energy in the community where anyone can lead a vivid life and true happiness lies.

Chapter V



躍動

ふるさとを愛する市民一人ひとりの熱い思いが、まちのエネルギー。だれもがいっききと暮らせるまち、笑顔が輝くまちに、本当の豊かさがあります。



ボランティアの心

現在、小松島市では、七十三団体約一、七七〇人あまり(令和二年二月現在、小松島市社会福祉協議会把握数。個人ボランティアや活動の一部でボランティア活動をしている団体含む)の市民が、ボランティアとして活動されています。さらに、毎年六月に実施されているリフレッシュ瀬戸内(約千人が参加)や八月のチャリティ阿波踊り、町内会や学校などでのボランティアを含めると、多くの市



民がボランティア活動に参加していると言えるでしょう。

地域福祉の分野では、小学校区ごとに、住民の有志や民生委員児童委員、婦人会員等で組織された十一の地区社会福祉協議会が、従来の高齢者へのゆるやかな見守り等の福祉活動や、平成十七年より開始した小学校児童の登下校時の見守り活動で犯罪の抑止とともに、小学児童との交流を深めています。

介護予防の分野でも、地域包括支援センターで養成した、介護予防サポーターは百三十人を超え、脳トレ教室の運営や介護予防事業の手伝いなどを行っています。

特に介護予防サポーターが主体となり、地域の高齢者の通いの場として開催している、高齢者サロンは、市内に十カ所あり、体操や歌、小物作り、お茶会、おしゃべりなど様々なプログラムで高齢者とサポーターが楽しい時間を過ごされています。

また、小松島市社会福祉協議会が開催した傾聴ボランティア養成講習会の修了者で結成した傾聴ボランティアくつろぎは、高齢者や障がい者施設を訪問して入居者の話しを聴いたり、おしゃべりルームで来談者への傾聴活動を行っています。

その他には、市立図書館で乳幼児や保護者に向けて読み聞かせ活動するグループや、高齢者施設等を訪

問してレクリエーションや音楽で交流するグループ等が特技や趣味を生かして活動されています。高校生と共働して環境活動に取り組むNPO法人や二十年を超えて障がい児者を支援する活動に取り組む団体もあります。

また、毎年のように全国各地で起こる災害に、小松島市からも災害ボ



ランティアとして被災地に駆けつける方や義援金を送られる方もおられます。

小松島市は、日本のボランティアセンターの先駆けである善意銀行発祥の地です。少子高齢化、人口減少でボランティア人口も減少傾向にあります。ですが、助け合いの心、ボランティアアメインドは市民に根付き、多様な活動を行っています。

みんなでまちを守る

自治会を基盤とした自主防災組織が次々と結成され、「自分たちのまちは自分で守る」を合言葉に、消火訓練をはじめ、炊き出し訓練や救命救急訓練など様々な防災活動を行っています。

Many local residents in different volunteer groups, some watching over senior citizens and children, others reading picture books for infants or teaching foreigners Japanese language and its customs. The volunteer groups were created one after another in the fields of welfare, education, medical service and international exchange. Participants apply and share their skills and experiences. This spread of volunteering in our community promotes one of our values, 'people-focused' which means 'local development by/for the local people'.

交流で広がる友情の輪

本別町との友好の歴史

明治三十年に、当時の徳島県那賀郡立江村（現在の小松島市）の人々が、村長の東條儀三郎を団長として、北海道十勝国中川郡本別町（現在の本別町勇足）に入植し、冬には氷点下三十度以上にもなる極寒の北の地で、うっそうとした原始林を切り開き、その苦勞のうえに、現在の本別町の礎

を築きました。

先人の素晴らしい功績を深く心に刻み、その誇りある歴史を語り継ぎながら、小松島市の発展につなげるため、平成十三年に小松島市市制五十周年記念式典及び本別町開町百周年記念式典において、



年記念式典において「小松島市・本別町友好都市提携調印式」を行い、両市町間の将来に向けた友好とまちの発展を誓い、本格的な交流が始まりました。

小松島市・本別町 友好都市宣言締結書

小松島市と本別町は、互いに友好・親善の絆を一層深め、各分野にわたる交流を促進するとともに市政・町政の進展と住民福祉の向上を期するため、小松島市市制施行50周年、本別町開町100年という節目の年を迎えたことを機会に、ここに友好都市盟約を締結する。

平成13年6月1日

ともに手を携え友好の絆で
未来を創る交流を

小松島市の市制施行七十周年記念にあたり、心からお祝い申し上げます。

御市と本町は、小松島市市制施行五十周年記念、本別町開町百年記念というお互いの大きな節目の年に友好都市提携の調印が交わされ、以来二十年を迎えました。この間、公的・民間問わず、教育、文化、経済などさまざまな分野において活発な交流が行われていたところであり、その絆はますます強固なものとなっています。

これまで築き上げてきたこの強いつながりは、双方にとって非常に大きな財産であり、たとえ今後高い壁に直面した場合であっても、必ずや大きな力となって問題の解決に貢献していただけるものと確信しています。今後も一層の友好、親善が図られ、相互理解が深まることにより、市政、町政の進展と住民福祉の向上につながることを期待しているところです。

今後も小松島市民のみならずより多大なるご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、小松島市のさらなるご発展と、市民のみならず、ますますのご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、お祝いのごあいさついたします。

本別町長 高橋 正夫



児童の交流

友好都市宣言の締結よりも前の平成二年十二月から、小松島市立立江小学校と本別町立勇足小学校の間で、児童やその保護者を中心に、交通や学校紹介のビデオレター、郷土絵画の交換による学習交流が行われています。

また、夏には勇足小学校からの訪問団を迎え、冬には本別町へ立江小学校の児童が訪問し、真夏の四国や厳寒の北海道で、未体験の自然にふれながら、それぞれの地域の特色や



文化を学んでいます。両市町の多くの児童とその保護者が、この交流によって「友情の輪」を広げています。



両校は、平成五年十二月に姉妹校の締結を行い、今日まで交流を続けています。今後も市内の他の学校も、この交流に参加し、「友情の輪」が大きくなるような取組みを進めていきます。

この「友情の輪」の活動は、歴史の糸で深くつながる両校の児童が交流を深めることで、先人の苦勞と努力を学び、それぞれのまちの将来を担う貴重な人材として、成長してほしいとの願いも込められています。

住民の交流

立江小学校と勇足小学校との交流をきっかけにして、今までに市民・町民相互の交流も、様々な分野で幅広く続けられています。

小松島市の「港まつり」や本別町の「きらめきタウンフェスティバル」や「山溪つじ祭り」などのお祭りや各種イベントにおいては、それぞれのまちの新鮮な特産品のPRと販売を行い、多くの人々に親しまれています。また、多くの市民・町民が両市町を訪れ、経済や文化、観光資源や産業を通して交流を深めています。



小松島市の発展のための交流

そのほかに、両市町は職員の交流研修を実施し、両市町間の友好関係の発展や、市民・団体交流のための橋渡しを担っています。

今後も、相互の友好関係を深めるのはもちろんのこと、交流を通じて小松島市の歴史や文化、魅力ある観光資源をPRするための環境づくりや情報発信を積極的に行いながら、本別町との交流を続けます。



ふるさとへの詩

受け継がれるもの、変わりゆくもの



Komatsushima City is known for its fish sausage, bayberry, muraenesox cinereus and shitake mushroom.

According to the legend, Minamoto no Yoshitsune, a 12th century tragic hero, is said to have praised the flavor of its fish sausage. The fishery yield of muraenesox cinereus in the city has been one of the largest in Japan. A variety of industrial products such as worked timbers, industrial machines are also manufactured in the city.



昭和三十九年に新産業都市の指定を受けて以来、工業都市としての色彩の色濃い小松島市ですが、農業では、県北の畑作農業に対して、米作を中心とする県南の水田地域の中心です。周辺では果樹や野菜が栽培され、徳島市の近郊園芸都市であるばかりでなく、阪神にも出荷されています。沿岸部では施設園芸が盛んで、中でもイチゴは「女峰」「豊の香」などの名で全国に知られています。また、古くから、旧土佐街道沿いの門前町として栄えた立江町では、立江八幡神社の祭礼儀式から発達した花火製造が受け継がれ、隣の櫛淵地区ではシイタケやヤマモモが特産物となっています。また、小松島西高校の卒業生を中心とするNPO法人雪花菜工房ではヤマモモ・イチゴ・スタチ等新鮮な地元食材とオカラを混ぜ合わせた「雪花菜アイス」を全国的に販売し、地産地消による新たなオリジナルブランドとして期待されています。

港町らしく、ちくわ・フィッシュカツなど水産加工品の生産地としても有名で、沿岸では、エビ・イワシ・イカ・アジなどが水揚げされています。近年では、京阪神、関東に多く出荷されている「鱧（はも）」を市推奨の魚としてPRに力を入れています。一方、昭和四十八年に「阿波牛」が第一回全国牛枝肉共進会で、近江牛や松阪牛を抑えて日本一に輝き、平成元年度には、東京食肉市場での全国肉用牛共進会においても阿波牛が最優秀賞を獲得するなど、銘柄牛の地位は、確固たるものとなっています。

Specialty goods

03



ちりめん

紀伊水道の美しい海でとれたチリメン(いわしの稚魚)をすばやくボイルし、天日で乾燥させた逸品。醤油とスタチをかけてそのまま、または大根下ろしといっしょに食べるとおいしい。

Specialty goods

02



ちくわ

小松島といえばちくわ。とれたての小魚を練り、竹に巻きつけて焼いた焼きちくわは、義経もその芳香と美味を絶賛したと伝えられる風味豊かな伝統の味。酒の肴や副食に最適です。

Specialty goods

01



はも

小松島は全国でも有数の漁獲高を誇り、湯引きをするときれいに花が咲く夏の味覚として欠かせない食材です。カルシウム、タンパク質、ビタミン等が豊富で、夏バテにも効きます。

Specialty goods

06

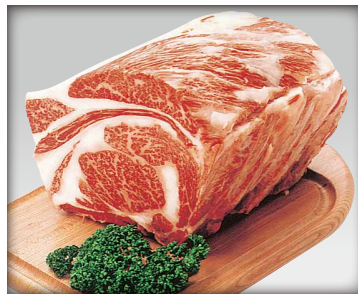


キュウリ

豊富な地下水と温暖な気候はキュウリの生育に最適。稲の前作として導入されたキュウリ栽培ですが、昭和45年頃からほぼ一年中栽培されるようになり、県下屈指の主産地を形成しています。

Specialty goods

05



阿波牛

各種品評会で優秀賞を受賞。高品質の高級和牛として全国に知られています。一頭一頭大切に育てられた阿波牛の生命はサシのローズといわれ、赤と白のコントラストが美しい霜降り肉のやわらかさとおいしさは格別。

Specialty goods

04



菌床シイタケ

菌床とは、オガくずなどに栄養源を混ぜて固めたブロック状の培地のこと。現在、小松島市は県内で最大の出荷量を誇っており、肉厚のものをホイル焼きやバター焼きでどうぞ。

Specialty goods

09



イチゴ

市内平野部に広がるハウスでは、12月から5月頃までおいしいイチゴが栽培されています。「女峰」「豊の香」などの人気ブランドも登場し、全国にその名を馳せています。

Specialty goods

08



スタチ

徳島県を代表する特産品の一つ。東洋のレモンともいわれ、料理の味を一段と引き立てる名脇役。しぼり汁を焼魚・フライに、皮をおろして冷や奴に、輪切りを飲み物に浮かべて…などいろいろな風味が楽しめます。

Specialty goods

07



ミカン

温州みかんを中心に、日当たりや水はけのよい山の斜面で多く栽培されている。甘味は最高、出荷期は10~12月。

小松島の特産品の作業風景



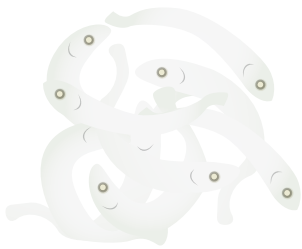
ちりめんの天日干し

漁獲後にボイルされたちりめんじゃこ(いわしの稚魚)は、海岸の広場で天日干しされます。真っ白いちりめんが敷き詰められた風景は、まるで雪が降ったよう。ボイルした柔らかいもの、半乾燥、乾燥したものをそれぞれ「阿波ちりめん」として食卓に潮の香りを運んでいます。



花火の製造

立江寺の門前町・立江町には、特色ある産業として、立江八幡神社の祭礼儀式から発達した花火製造が受け継がれています。かつては各地の氏神の祭礼に素人細工の花火が奉納されていましたが、中でも立江八幡神社の花火が最も有名で、大勢の見物客で賑わっていました。



漁港の風景

天然の良港を擁する小松島市は、漁業も古くから盛んで、エビ・イワシ・ボラ・コノシロ・イカ・アジなどが水揚げされる他、干しエビ・ちくわ・かまぼこなどの水産加工品は、小松島市を代表する特産品となっています。沿岸では、わかめの養殖も行われています。



小松島の製品



歯科技工物

物を噛める喜びと口元的美しさを提供することを目指して、入れ歯や差し歯などの歯科技工物の制作・研究・開発を行っています。



国産針葉樹合板

私たちにとって、生まれ育った故郷の気候が体に合うように、木も育った地域の気候に一番慣れ親しんでいます。この国産の針葉樹を木材として加工し、製品づくりをしています。



襖の心材

色目の美しさ、加工のしやすさなどが特徴で日本を代表する針葉樹である徳島県産のスギを使用し、製品を製造しています。



すだち生酢・ゆず生酢

徳島を代表するすだち・ゆずを使用し、添加物を一切含まず、加熱殺菌など何も手を加えず、製品を造っています。



粗大ゴミ切断機



FRP成形プレス

産業用機械

地球環境への負荷低減をテーマとして、リサイクルプラントから環境・リサイクル機器や油圧技術を活かした産業用プレス、また自動省力化装置など特色ある各種産業用機械を製造しています。



合板・建築内装材

収納等の住宅機器、建築内装材や家具・建具用的高级プリント合板。その他建築構造物など、木のぬくもりを大切に製品づくりを行っています。

四季のきらめきと喜び

歴史のロマンが蘇る義経夢想祭、自然に親しむ桜まつり、夏を彩る港祭り、伝統が息づく秋祭りなど、どの祭りにもふるさとを愛する心があふれている。



咲き誇る春

春になると、自然公園でもある恩山寺の裏山は淡いピンクに染まり、大勢の花見客が訪れる。やがて金長神社では、狸が主役の楽しい春祭りの準備が始まる。

- ウォークラリー(4月・日峰公園一帯)
- 金長神社例大祭(5月・小松島ステーションパーク)





鮮やかに夏

市民が昭和9年の新港完成を祝ったのが港まつりの始まり。
以来、海の日になんで毎年海の日とその前日の2日間開催され、
港全体は祭り一色に染まる。

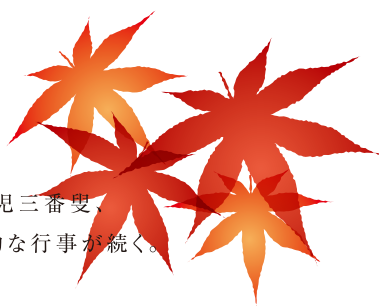
- やまもも狩り(6月・櫛漕町)
- 小松島祇園祭(7月・松島町八坂神社)
- 小松島港まつり(7月海の日とその前日・新港周辺)



Flowers of each season bloom in Komatsushima City. In each season traditional and enjoyable events are held, such as the "Cherry Blossom Festival," "Kincho Shrine Festival," "Gion Festival," and "Port Festival."



彩りの秋



収穫の喜びにわきたつ秋は、天王社の稚児三番叟、
 櫛漕八幡神社例祭のやぶさめなど伝統的な行事が続く。

- 立江祇園囃(9月・立江町八幡神社)
- 元根井花火大会(9月・元根井漁港)
- 櫛漕八幡神社例祭(9月・櫛漕八幡神社)
- 横須花火大会(10月・横須海岸)
- 天狗しばき(10月・立江町秋葉神社)
- 稚児三番叟(10月・田野町天王社)

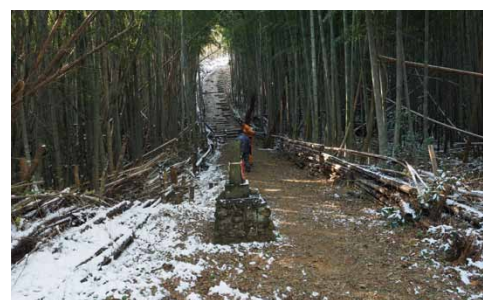




冬のやさしさ

比較的温暖というものの、まだ風の冷たい2月、
かつて源義経が小松島市に上陸したのと同じ時期に、
義経や弁慶に扮して義経軍が通った道をたどる。

- 義経夢想祭(2月・芝生町旗山)
- 立江地藏市・植木市(2月・立江寺)



Traditional harvest festivals are held in the autumn. In February when Yoshitsune disembarked the district back long ago; the "Visionary Festival for Yoshitsune" is held, where people in antiquity apparel walk to follow a route the Yoshitsune troops was believed to have taken.



市章

the Official Emblem

中央に小松島市の頭文字「小」を据え、その周りを錨の図案で囲み、港湾都市小松島の発展を象徴的に表現したものです。昭和9年5月に町章として制定されたものを市章として今日も受け継いでいます。



市の木 [やまもも]

the Official Tree : bayberry

常緑樹で年中青々と茂り、初夏には深紅の実をつけ、その甘ずっぱい味覚で市民に親しまれており、小松島市の限りない躍進と情熱を象徴しています。
(昭和63年2月15日制定)



市の花 [花みずき]

the Official Flower : flowering dogwood

ミズキ科の落葉小高木。春には白またはピンクのかわいい花弁をつけ、秋には深紅色に紅葉し、市民の目を楽しませてくれます。かれんな花弁が和と発展を象徴しています。(昭和63年2月15日制定)



市推奨の魚 [鱧]

the Official Recommended fish : conger myriaster

鱧が生息している小松島市沖の紀伊水道には、栄養豊かな水質や泥があり、関西圏で食べられている鱧のほとんどが徳島産となっています。小松島市の鱧は、県外から訪れる観光客の味覚を満足させる重要な観光資源の一つとなっています。
(平成22年5月21日推奨)

小松島市の概要

小松島市は、徳島県の東部に位置する臨海都市。徳島市、阿南市、勝浦町に囲まれ、紀伊水道を隔てて和歌山県に対しての。街の中心は市の北部で、その中央を神田瀬川が流れ小松島湾に注ぎ、東南部には肥沃な平野が広がる。気候は温暖で、冬でも積雪はきわめて希で、夏は熱帯なみの暑さである。東経134°35'4"、北緯34°00'1"、面積45.30km²、人口36,894人(令和3年1月1日現在)。昭和26年市制施行、31年に坂野町を編入し現在に至る。



INFORMATION

Komatsushima is a coastal city born in 1951(Showa 26), and is located in the east part of Tokushima Prefecture. The climate is mild, but it gets as hot here as in the tropics in the summer. It covers an area of 45.30km², and contains a population of 41,477 (As of December 1).

小松島市 社会福祉憲章

- 1 市民は、ひとしく健康で文化的な社会生活を営むため、その権利が侵されてはならない。
- 1 市民は、明るい豊かな文化生活を営むため、互いに励ましあい、助けあわなければならない。
- 1 市は、福祉都市小松島の建設に最大の努力をつくさなければならない。
また、すべての職員は、市民の幸福のため、心から奉仕しなければならない。

(昭和46年4月1日制定)

In publication,

Our city, Komatsushima has been developed as a port city since ancient times against the backdrop of the rich natural environment and one of the best natural ports in Shikoku “Komatsushima Port” since the city system came into effect on June first, 1951 (Showa 26).

I would like to express my sincere gratitude to all our predecessors for their efforts and the tireless work of the citizens to celebrate the 70th anniversary of Komatsushima City this year.

However, recent years, with the rapid progress of declining birthrates and the aging population, internationalization, advanced information technologies, etc., the environment surrounding local governments has reached a major turning point, and the needs of citizens are also diversifying. Based on these changes we formulated “A 6th Comprehensive Plan for Komatsushima City” and started it in the fiscal year of 2017 (Heisei 29). Our goal is to make Komatsushima, a city of hope and trust that shines into the future. We are making every effort for the active participation of citizens in the city and administration to have a partnership throughout the city.

I would like everyone who reads this handbook to know the history, culture and charm of our city, Komatsushima. I ask for your further understanding and cooperation for the development of the city administration.

March, 2021 (Reiwa3)



小松島市長

中山俊雄

発刊にあたって

小松島市は、昭和26年6月1日の市制施行以来、豊かな自然環境と四国屈指の天然の良港・小松島港を背景に、古くから港湾都市として発展してきました。

今年で70周年という節目を迎えることができましたのも、先人各位のご努力はもとより、市民の皆様のためまいご尽力の賜であると心から感謝申し上げます。

しかしながら、近年、少子高齢化・国際化・高度情報化などの急速な進展に伴い、地方自治体を取り巻く環境は大きな転換期を迎えており、市民ニーズも多種多様化しております。こうした時代の変化をふまえ策定した「小松島市第6次総合計画」を平成29年度からスタートさせ、目標とする都市像である「未来へ輝く・希望と信頼のまち・こまつしま」の実現に向けて、市民の皆様の積極的な市政への参加と協働によるまちづくりを全力で取り組んでおります。

この要覧をご覧になる皆様に、私たちのまち小松島の歴史と文化、そして魅力を知っていただき、市政発展のためにより一層のご理解ご協力をお願いいたします。

令和3年3月